

平成 27 年度 文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」

みやぎ・せんだい協働教育基盤による
地域高度人材の育成
事業報告書

2020 年 3 月

地域協働教育推進機構

目 次

はじめに	1
1. 「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成」事業の目的及び概要..	2
2. フォローアップへの対応.....	7
3. 教育カリキュラム.....	15
4. FD/SD の取り組み	43
5. キャリア支援	47
6. 地域企業・地域の相互支援.....	52
7. 情報発信	54
8. COC+シンポジウム.....	57
9. 自己点検・評価、外部評価.....	63
部会員等名簿	65

はじめに

「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成」は、2015 年度に地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の採択を受け、2019 年度までの5年間、申請時の計画に沿って歩みを進めてまいりました。この5年間、宮城県におけるCOC+の活動にご理解・ご協力いただいた皆さまに、この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。

宮城県におけるCOC+は、事業名が示すとおり、宮城県内の高等教育機関、自治体、企業が協働し、教育基盤の整備を推進するとともに、学生をはじめとした地域で活躍しうる人材の育成と地域企業の発展を同時に目指したものです。

人材の育成については、単位互換コア科目とした「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」、「地域の課題Ⅱ（地域企業版）」及び「地域課題演習（地域企業版）」を開講し、単位互換の推進を行いました。また、本事業で目指す人材の育成を客観的に測るため、各大学における学生個人の成績評価とは別に、新たに事業協働機関全体で地域高度人材の共通指標を作成し、科目の開発及び評価において活用してきました。

上記人材の育成及び企業の発展を目指す中で、地域企業の現状と課題を見だし、また将来像を描きながら、その解決に向けた取り組みを地域企業とともに進めることや地域企業に就職した社員、職員のスキルアップ等のためのキャリアカウンセリングや自治体と連携したセミナーの開催などを通じて地域企業の発展に寄与してきました。

本書は、申請時の計画、採択後からこれまでの歩みを「事業報告書」として、事業の目的及び概要、フォローアップへの対応、教育カリキュラム、FD/SDの取り組み、キャリア支援、地域企業・地域の相互支援、情報発信など多岐にわたる内容についてまとめたものとなります。関係者の皆さまには、ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

終わりに、本事業の連携高等教育機関の皆さま、連携自治体である宮城県、仙台市、県内の多くの企業の方々、ご支援、ご協力いただきました皆さまに感謝申し上げます。

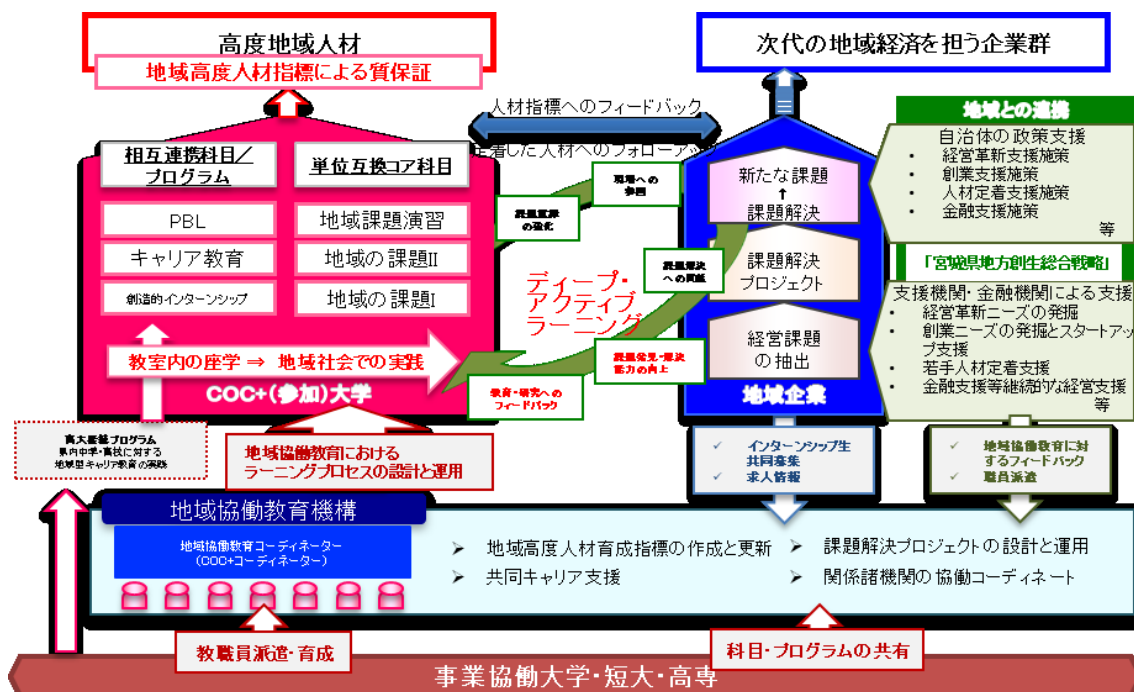
みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成
事業最高責任者・東北学院大学長 大 西 晴 樹

1. 「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成」事業の目的及び概要

「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成」（以下、本事業）は、地域経済に対して新たな活力を与える企業の担い手たる人材の育成、及び、地域企業の魅力を向上し、もって宮城県の地方創生に貢献するものである。それは、老舗企業の伝統と革新や、宮城県の主要産業たる製造業の成長、また、新規産業の創造など多岐に亘るが、共通して求められるのは、自ら仮説を設定し試行錯誤を繰り返しながらより適切な解を導き出すことを、地域のビジネスの現場で実践できる人材である。さらに、震災によって大きなダメージを受けた地域経済の再生には、豊かな地域資源を経営資源に変えて世界のマーケットに進出するような、グローバルな思考を持ち、それを実現できる人材も必要とされている。

本事業では、このような人材を「地域高度人材」と定義し、事業協働地域にある12の高等教育機関がそれぞれ有している教育プログラムを相互に単位互換し、より実効性の高い連携型の地域人材育成プログラムの構築（地域協働教育基盤）を目指した。

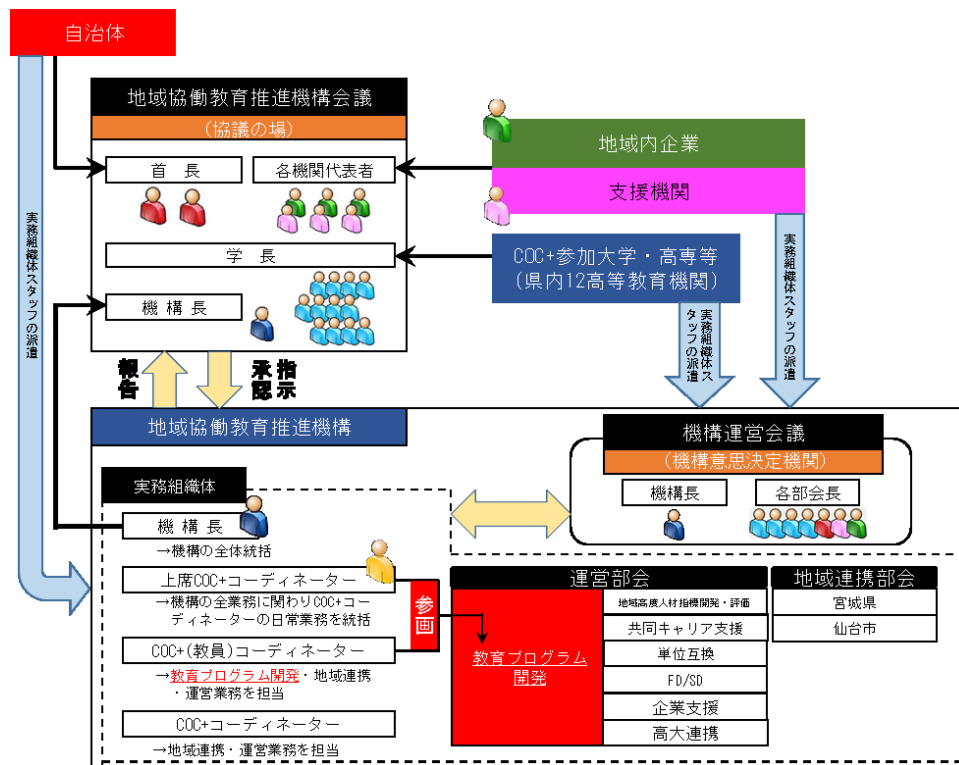
【事業概要図】



■体制の整備

本事業における目標の達成に向けた体制の整備として、大学等、企業等及び自治体等が参画する地域協働教育推進機構を設置した。同機構には、機構の運営全体を協議する場としての「地域協働教育推進機構会議」と、以下の部会を設置して、事業協働機関全体が一体となり検討する体制を整備している。また、部会間の連携・調整や全体的な実務的協議を行う場として、各部会の部会長及びCOC+推進コーディネーターが参画する「地域協働教育推進機構運営会議」を設置している。

【実施体制図】



【地域協働教育推進機構設置部会】

No.	部会名称	役割・備考
1	教育プログラム開発部会	本事業で実施する正課及び正課外の教育プログラムの開発、運営、検証及び普及に向けた取り組みを行う。
2	地域高度人材指標開発・評価部会	本事業で実施する教育プログラム等における成果測定としての指標の開発、運用、検証及び普及に向けた取り組みを行う。
3	共同キャリア支援部会	本事業に参加する学生の就職活動を円滑に進めることができるような正課外のセミナー及びキャリアカウンセリング等の開発、運営及び検証を行う。
4	単位互換部会	本事業で実施する正課の教育プログラムを互換するための方法、内容の検討、検証及び普及に向けた取り組みを行う。
5	FD/SD 部会	本事業で実施する正課及び正課外の教育プログラムの継続的实施のための「地域協働教育コーディネーター養成研修」等の研修会の企画、運用及び検証を行う。
6	企業支援部会	学生と企業の成長を両立するインターンシップと就職後の定着支援の実施による企業活動の継続・発展に向けた支援内容の検討、実施、検証及び普及に向けた取り組みを行う。
7	高大連携部会	高等教育と初等中等教育（高校教育）の円滑な接続を目指した教育プログラムの開発、運営、検証及び普及に向けた取り組みを行う。
8	地域連携部会	上記1～7の部会活動をもとに自治体の施策の検討を行うとともに、自治体が抱える課題解決を目指した取り組みを推進する。これまでの実績をもとに、2017年6月の地域協働教育推進機構会議で設置を決定した。

これらの部会は、それぞれが独立して活動するのではなく、部会長及びCOC+推進コーディネーターとの日常的な打ち合わせに加えて、地域協働教育推進機構運営会議等での進捗共有を踏まえ、部会の枠組みにとらわれず部会間の連携を実現できる体制とした。

なお、これまでの部会開催回数は、メール審議も含め一つの部会について9回から19回、全体での部会開催数は2019年度末で150回となった。その他、各学内での情報共有のための会議や、COC+推進コーディネーターと教職員間の打合せ、新規企業の訪問、銀行や企業団体からの企業の紹介、企業や事業協働機関以外の方々との対話の機会としてのシンポジウム等、意思疎通の場を複数設けるようにしており、事業協働機関同士のつながりや、機構会議・運営会議・各部会等の縦の連携、事業協働機関以外の企業等との連携に尽力した。

【機構会議、運営会議、各部会の開催回数】

会議体名称	年度別会議等開催回数（回）					
	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	合計
地域協働教育推進機構会議	1	4	3	3	4	15
地域協働教育推進機構運営会議	1	4	4	3	3	15
教育プログラム開発部会	1	5	6	5	2	19
地域高度人材指標開発・評価部会	1	5	4	4	2	16
共同キャリア支援部会	2	6	4	3	2	17
単位互換部会	1	3	5	4	2	15
FD/SD 部会	2	3	5	3	2	15
企業支援部会	2	6	3	3	2	16
高大連携部会	1	4	3	3	2	13
地域連携部会	—	—	3	3	3	9
計						150

■事業計画について

本事業は概ね申請時の計画に沿って遂行した。各年度の成果として、一部の定量的な数値目標に届いていないなどの課題があったものの、事業協働機関全体で課題解決のための取り組みを強化したことにより、補助期間最終年度である2019年度には全ての数値目標を達成する見込みである。

【事業計画】

	平成26年度 準備期 (COC採択)	平成27年度 立ち上げ期 (COC+採択)	平成28年度 始動・実施	平成29年度 本格実施	平成30年度 展開・拡大期	平成31年度 自走化に向 けた事業定 着期
全体運営	連携開始	会議体構築	各種協議体運営(自己評価と点検)			
			中間報告書の発表		最終報告書の発行	
			事業継続に向けた協議		新たな体制実施	
地域高度人材指標	地域志向型 評価基準の検討	指標の検討着手	検討と試行	実践と検証		
COC+コーディネーターの 採用と育成、事務局整備	COCコーディネーター の選任	公募・ 選任	育成プログラムの開発 と試行	育成プログラムの実践	育成プログラムの 実践と検証	
		協働教育機構事務 局の設置	移転(仙台駅前)と連携推進	各大学へのノウハウ移管		
単位互換コア科目		開講準備	試行的実施	本格実施	実施拡大	一層の拡大
相互連携科目(PBL・ インターン等)		開講準備	試行的実施	実施	拡大	
中・高地域型キャリア教育	COC事業として実施		準備	開発と試行	普及と検証	
共同キャリア支援 (学内企業説明会、各 種セミナー開催など)		試行	本格化	安定実施		
FD/SD研修会の共同実施		1回／年度	2回／年度	4回／年度		
情報公開・普及		WEBサイト構築	継続的な情報発信			
		地域企業との定期的な情報交換・発信				
		地域協働教育シンポジウム(年1回)の開催				

【本事業における事業協働地域就職率などの定量的な数値目標】

	2014	2015		2016		2017	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
事業協働地域就職率	43.76%	45.28%	47.42%	46.20%	44.54%	48.14%	44.83%
うち COC+大学	33.6%	34.5%	34.8%	36.7%	32.7%	39.0%	35.2%
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	686 人	778 人	646 人	968 人	663 人	1,205 人	1,417 人
うち COC+大学	250 人	300 人	259 人	400 人	304 人	550 人	777 人
事業協働機関からの寄附講座数	0 講座	3 講座	0 講座	3 講座	1 講座	4 講座	0 講座
うち COC+大学	0 講座	1 講座	0 講座	1 講座	0 講座	2 講座	0 講座
事業協働機関雇用創出数	0 人	10 人	0 人	25 人	1 人	45 人	10 人

	2018		2019
	目標	実績	目標
事業協働地域就職率	50.66%	48.23%	54.87%
うち COC+大学	41.0%	44.2%	43.6%
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	1,437 人	1,819 人	1,676 人
うち COC+大学	700 人	876 人	850 人
事業協働機関からの寄附講座数	7 講座	0 講座	6 講座
うち COC+大学	3 講座	0 講座	3 講座
事業協働機関雇用創出数	70 人	77 人	100 人

2. フォローアップへの対応

平成 28 年度フォローアップ報告書

※フォローアップの年号は、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会からの通知に合わせて和暦としています。

※見出し番号は各年度のフォローアップ報告書に対応しています。

1. 選定時に付された留意事項への対応

■特に順調に進捗している点

- ・ 留意事項①「宮城県全域であることを踏まえた事業協働機関との役割分担と連携体制の明確化」については、最高意思決定機関として「地域協働教育推進機構会議」が設置され、また、運営の統括と事業の進捗状況等の実務的責任を負う「地域協働教育推進機構運営会議」を設置することが決定された。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 留意事項②「仙台市以外の自治体との連携の検討」については、未達成であり、今後確認する必要がある。
- ・ 留意事項③「みやぎ・せんだい協働教育基盤とその組織的仕組みについての検証と実行性ある体制づくり」、留意事項④「事業協働地域の企業や自治体のニーズが反映される仕組みの構築」については、今後の進行管理について注視する必要がある。
- ・ 留意事項⑧「COC+大学における未達成の申請要件（平成 29 年度中の全学的な意思決定と平成 30 年 3 月までに達成）」については、進行管理を励行する必要がある。

2. 達成目標と事業内容

■特に順調に進捗している点

- ・ 事業協働地域就職率は、事業申請時 44.54%であったのが、実績値では 48.21%と上昇している。
- ・ 共同キャリア支援の試行プログラムとして「みやぎ県南地域企業研究会」を開催した。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 事業協働機関へのインターンシップ参加者数は、事業申請時 681 人であったのが、実績値では 646 人に減少しており、今後の経過を注視する必要がある。
- ・ 留意事項⑤「協働教育基盤の構築と地域高度人材の育成実現に向けた道筋の明確化」については、組織上の役割分担が示されたのみで、今後の経過を注視する必要がある。
- ・ 留意事項⑥「COC の取組に留まらない新規性の明確化」については、「ディープ・アクティブラーニング」への取組を確認したとされているが、今後の経過を注視する必要がある。

3. 事業の実施体制の構築

■特に順調に進捗している点

- ・ 本事業の意思決定機関である「地域協働教育推進機構会議」及び事業運営を担当する各部局と部会間の調整を図るための「地域協働教育推進機構運営会議」を設置し、定期的に開催することを決定した。

- ・ COC+推進コーディネーターとして、特任教員 5 名、職員 2 名を選任した。
- ・ 仙台市とともに「仙台・地域人材定着推進実行委員会」を立ち上げた。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 地域内企業として参加している「株式会社知識創発研究所」から派遣されているコーディネーターと、COC+推進コーディネーターの役割を明確化する必要がある。
- ・ 課題解決型プログラムを共同開発している「一般社団まるオフィス」は、気仙沼市と連携して参加学生の宿泊費用の負担をしているとあるが、気仙沼市は事業協働機関となっていない。留意事項②の指摘から、気仙沼市を事業協働機関に加えることを検討することが望まれる。

4. 事業経費

■特に順調に進捗している点

- ・ 特になし。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ COC+推進コーディネーターとして特任教員 5 名、職員 2 名を選任と記載されているが、特任教員の人数が不明で合計 4 名ともとれるため、確認が必要である。
- ・ 事務局用及び持ち出し用パソコン 12 台の活用状況や実施した教育プログラムと、本事業との関連性が不明である。
- ・ 課題解決型プログラムを共同開発している「一般社団まるオフィス」は、気仙沼市と連携して参加学生の宿泊費用の負担をしていると記載されているが、経費については不明である。
- ・ 仙台市の中小企業活性化基金によって WISE プロジェクトに取り組んでいると記載されているが、経費については不明である。
- ・ 「地域課題データベース開発費」「HP デザイン・コンテンツ制作費」「教材制作費」等の「外注費」が事業経費の 47.2%を占めているため、発注先及び成果物の内容と本事業との関わりについて確認する必要がある。
- ・ 「本事業においては、COC+参加大学それぞれが個別の事業を実施する体制としていないため、COC+参加大学への事業経費配分は行っていない」と記述されている。そのため、「宮城の企業発見プログラム」「みやぎ県南地域企業研究会」「WISE プロジェクト」「創造的インターンシップ」等に係る経費負担について注視する必要がある。

5. その他、取組の成果等

■特に順調に進捗している点

- ・ 「高大連携部会」において、関係機関と覚書を交わし、本事業と中等教育の接続を進めることとなった。
- ・ 平成 28 年度から文学部・教養部において地域志向科目が必修科目として開講された。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

「高大連携部会」において、本事業と中等教育の接続を進めることとなった事業の今後の取組内容について検証する必要がある。

6. 全体の取組について

■特に順調に進捗している点

事業協働地域就職率は、事業申請時 44.54%であったのが、実績値では 48.21%と上昇している。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

COC+推進コーディネーター（特任教員 5 名）及び職員（2 名）の勤務実態、並びに事業経費の 47.2%を占めている「地域課題データベース開発費」「HP デザイン・コンテンツ制作費」「教材制作費」等の「外注費」の発注先及び成果物の内容と本事業との関わりについて確認する必要がある。

7. 現地視察での指導・助言

記載なし。

中間評価結果と留意事項への対応

【総括評価】

B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

【コメント】

＜優れている点＞

- ・ カリキュラム体制について学習成果を具体的に評価し、改善につなげていることは評価できる。
- ・ 実施体制について部会を8つ整備するなど、仕組みがきちんと整備されていることは評価できる。
- ・ 地域の課題について、長期課題、短期課題の分析が適切になされていることは評価できる。

＜改善を要する点＞

- ・ 定量的事業目標の指標が全ての項目で目標を実績が下回っているため、対応することが必要である。
- ・ 地域教育科目、単位互換コア科目3科目の履修者数に課題があり、学生に魅力あるカリキュラムに変えていくことが必要である。
- ・ 就職状況に対し、構造的な課題に対する適切な分析・説明が必要である。
- ・ 地元の企業、地域産業とのマッチングについて、ニーズの掘り起こしを行い、ターゲットを絞った取組を実施することが必要である。

【留意事項1】

定量的事業目標の指標が全ての項目で目標を実績が下回っているため、対応すること。

【2018年度の対応状況】

定量的事業目標の達成に向けて、あらためて事業協働機関の代表者が集まる地域協働教育推進機構会議で現状を報告し、各大学・高専等の事業や連携事業の双方の取り組みを強化した。

地域就職者数に関しては、事業周知のFD/SD研修等を通して、大学の就職支援部門の意識改革が行われ、企業に対する積極的な調査確認を強化した。特に「支店経済」を特徴とする仙台においては、在京企業に対して県内配属が明確に意識されるように働きかけ、同時に正確な数字の把握に努めた。

インターンシップ参加学生数についても、大学の就職支援部門が中心となって学外諸機関との連携を強化し、行政や企業等が主催するインターンシップへの参加者数を把握した。

寄附講座については、事業協働機関である仙台市の地元中小企業支援事業と連動させ、県内に事業所を置く大手企業と連携した講座を開発した（次年度開講）。

【留意事項 2】

地域教育科目、単位互換コア科目 3 科目の履修者数に課題があり、学生に魅力あるカリキュラムに変えていくこと。

【2018 年度の対応状況】

地域教育科目の内容について、2017 年度中間評価の面接評価等を受け、2017 年以降、全 1 年生を対象とした科目説明会を実施している。科目説明会では科目の魅力を伝え、内容の理解を促す構成とした。また、単位互換コア科目である「地域の課題Ⅰ」が 2018 年度より東北学院大学において全学部必修科目となったこともあり、「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」の科目選択者は 1,519 人（前年比 3.5 倍）に達した。選択科目である「地域の課題Ⅱ（地域企業版）」の受講については、授業内で推奨したところ、72 人（前年比 9 倍）に達した。「地域課題演習（地域企業版）」についても、1 人の受講者があった。また、2018 年度内に行った科目説明により、2019 年度の「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」履修者は 1,651 人に達し、「地域の課題Ⅱ（地域企業版）」は 269 人、「地域課題演習（地域企業版）」については、説明会及びメール等による受講勧奨を実施し、当初計画を超える 27 人の受講が確定した。単位互換科目「地域の課題Ⅰ」についても、2018 年 1 月から履修の推奨活動を積極的に行い、学都仙台コンソーシアムの単位互換ネットワークを活用し、2018 年度は 11 大学から 101 人の履修登録があり、85 人の学生が受講した。なお、2019 年度に向けて 2019 年 1 月から履修推奨活動を行うことにより、「地域の課題Ⅰ」は 135 人、「地域の課題Ⅱ」は 56 人の履修登録があった。

【留意事項 3】

就職状況に対し、構造的な課題に対して適切に分析・説明すること。

【2018 年度の対応状況】

就職状況について、2017 年度に設置した「地域連携部会」で宮城県から県内大学生の就職状況及び高校生の就職希望状況等についての報告を受け、構造的な課題の分析を進めた。

支店経済都市である仙台市については、在京企業における県内配属に対する意識の強化が必要である。仙台市を除く県域では、ものづくり企業の集積を目指しており、工学系の技術者に対するニーズが高いが、ビジネスモデルの革新を担う人材としての文系学生の必要性も企業側に訴える必要がある。

ここで見いだした課題への対応について、地域連携部会、地域協働教育推進機構運営会議及び地域協働教育推進機構会議を中心に議論している。

【留意事項 4】

地元の企業、地域産業とのマッチングについて、ニーズの掘り起こしを行い、ターゲットを絞った取組を実施すること。

【2018 年度の対応状況】

2017 年度より活動を開始した「地域連携部会」において協議を行った結果、仙台市からはサービス業、宮城県全域としては製造業を中心とする業種に対する採用支援のニーズがあった。

それを踏まえて、大学、自治体及び地域企業が連携した相互支援体制の構築を目指し、低年次学生への情報発信を中心とした「地元企業魅力発信イベント」を実施し、企業 40 社、学生 94 人が参加した。これに付随して企業に対して、本イベントの事前に人材採用・定着セミナー、事後に経営革新セミナーを開催し、のべ 25 社、29 人の経営者・幹部等が参加した。

また、宮城労働局事業等と連携して、のべ 29 社の地元中小企業が「地域の課題Ⅰ・Ⅱ」に参画し、各社の課題抽出及び課題解決プロジェクトの設計に学生が取り組むことで、地元企業の情報発信と理解を促進した。

【参考意見】

- ・ 事業協働地域就職率等の事業目標について、COC+大学をはじめとする事業協働機関はもちろん、地域や社会全体の現状を的確に把握し、それらを踏まえて最終的な目標の達成に向けた取組を加速させること。
- ・ 補助期間終了後も引き続き地（知）の拠点としての役割・取組を担うため、学長のリーダーシップの下、COC+コーディネーター及び担当部署を中心とした事業協働機関間の適切な役割分担・コストシェアの推進、継続・発展のための各取組の実施について、予算面・体制面を含む具体的な計画の作成を進めること。
- ・ 地域課題の解決の観点から、アントレプレナーの支援強化についても検討されることが期待される。
- ・ 外部評価結果について、ホームページでの公表に留まらず、積極的な活用が期待される。

平成 30 年度フォローアップ報告書

1. 進捗状況の概要

■特に順調に進捗している点

- ・ 事業協働機関へのインターンシップ参加者数は大幅に増加している。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 事業協働機関からの寄附講座数、事業協働機関雇用創出数、ともに目標値を大きく下回っている。
- ・ 事業協働地域就職率も横ばいであり、本事業の成果的な動きは数値的に認められない。

2. 中間評価時に付された留意事項への対応

■特に順調に進捗している点

- ・ 地域教育科目（地域の課題Ⅰ）を一部の大学で必修化している。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 事業協働機関へのインターン参加者数を除き、各種数値目標達成の道筋が未だ見えない。
- ・ 事業協働機関との関係・連携について、事業協働機関からの寄附講座数・事業協働機関雇用創出数を見る限り、改善の方向にあるかどうかを確認できない。

3. 達成目標と事業内容

■特に順調に進捗している点

- ・ 事業協働機関へのインターンシップ参加者数は大幅に増加している。
- ・ 地域教育科目（地域の課題Ⅰ）が一部の大学で必修化されたことに伴い、履修者数は今後増加していくことが期待される。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 事業協働機関からの寄附講座数、事業協働機関雇用創出数、事業協働地域就職率をどう向上させるかの道筋が不明確であり、具体的なアクションについて検討が必要である。

4. 事業経費その他特筆すべき事項

■特に順調に進捗している点

- ・ 特になし。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 人件費・謝金が大きな割合を占めているが、成果につながっていない。

令和元年度フォローアップ報告書

1. 進捗状況の概要

■特に順調に進捗している点

- ・ 「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」「事業協働機関雇用創出数」が大幅に増加している。
- ・ 平成 30 年度から地域志向科目を必修化したことにより、地域志向科目受講者数が増加し、「学生の地域志向科目受講状況」も平成 29 年度の 45%から平成 30 年度の 71.4%と大幅に上昇している。

■課題（事業終了に際し改めて確認を必要とする点）

- ・ 「事業協働機関からの寄附講座数」は、目標値を大幅に未達（平成 29 年度に引き続き 0 講座）という状況である。「補助期間終了時点までに目標値に達成できるよう取り組んでいく」との記載があることから最終年度の成果に期待したい。
- ・ 最も重要な指標である「事業協働地域就職率」は事業開始後の最高値となったものの、目標には達していないことから、原因を分析し、具体的な対応策をとることが必要である。

2. 中間評価時に付された留意事項等への対応

■特に順調に進捗している点

- ・ 「事業協働機関雇用創出数」が大幅に増加しており、目標を達成している。

■課題（事業終了に際し改めて確認を必要とする点）

- ・ 「事業協働機関からの寄附講座数」「事業協働地域就職率」の向上に務めることが重要である。

3. 達成目標と事業内容

■特に順調に進捗している点

- ・ 「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」「事業協働機関雇用創出数」及び「学生の地域志向科目受講状況」は順調に推移している。

■課題（事業終了に際し改めて確認を必要とする点）

- ・ 「事業協働機関からの寄附講座数」「事業協働地域就職率」については、「目標値に達する予定である」「今後、各大学においても向上傾向が求められると思われる」との記載があるが、これらを具体的に、どのように向上させるかの道筋が不明確である。

4. 事業経費その他特筆すべき事項

■特に順調に進捗している点

- ・ 特になし。

■課題（事業終了に際し改めて確認を必要とする点）

- ・ 経年的に補助金の多くが人件費の充てられてきていることから、補助期間終了後の COC+ 事業の機能の継続性及び必要な予算の確保について確認が必要である。

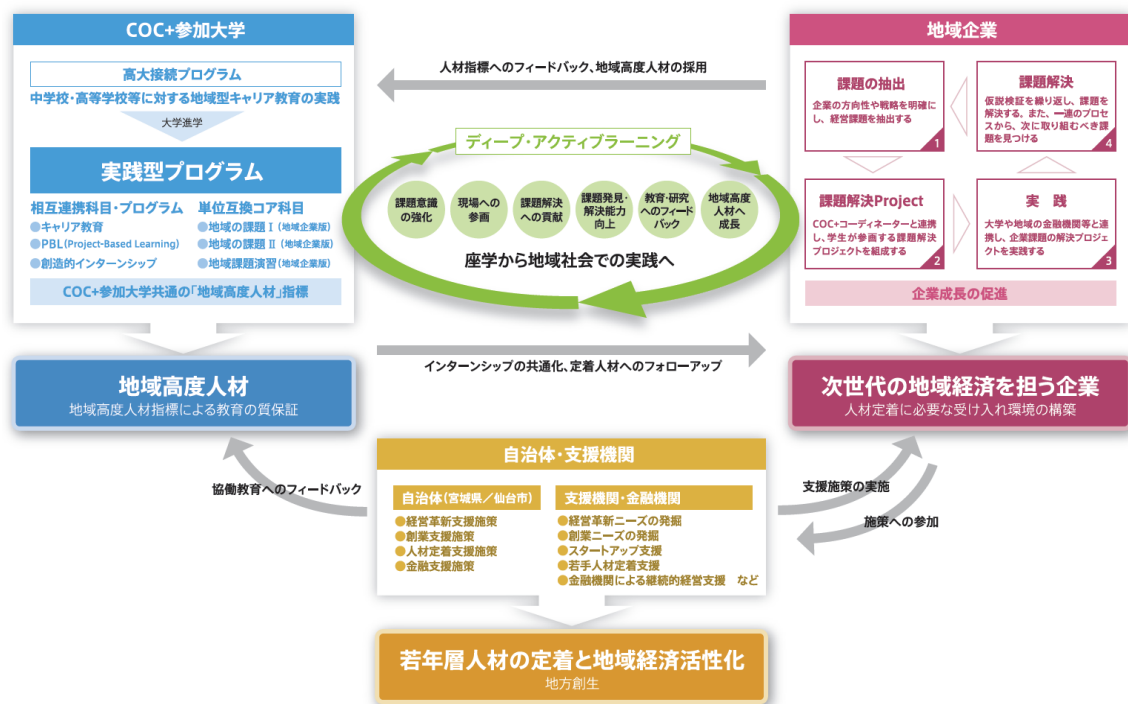
3. 教育カリキュラム

2015 年度から、本事業のコアと位置付けている教育プログラム「単位互換コア科目（東北学院大学では、地域教育科目としている）」の「地域の課題Ⅰ」、「地域の課題Ⅱ」、「地域課題演習」の開講と事業協働機関への公開、FD/SD 研修や地域協働教育コーディネーター養成研修など教職員のスキルアップ研修、シンポジウム等を通じて、本事業の一貫した目標である「ディープ・アクティブラーニングによる学生の深い学び」への理解促進と事業協働機関に導入するための機会づくりに注力してきた。

その中で、学生が地域の現状を正確に捉え、事業協働地域における人材像やあるべき姿を共有し、そこにある課題の解決に向けて、大学側または企業側が、個別ないし相互に発展することが必要であるという認識が得られるよう、共通理解を得る機会を多く持つことに重点を置いた。教育プログラムの開発にあたっては、本事業採択後から教育プログラム開発部会（部会長：東北学院大学学長室長・経済学部 阿部重樹 教授）にて審議と評価、検討を行い、多様な教職員の意見を反映しながら実施してきた。

また、単位互換部会（部会長：仙台白百合女子大学人間学部 鈴木寿則 准教授）では本事業で開発される単位互換コア科目や相互連携科目・プログラム等の単位互換の推進に向けた方法・方策等を検討し、広く事業協働機関等の学生・生徒の学びを深める機会を提供した。

【本事業のコアプログラム】



■教育プログラムの開発と評価・改善

(1) 単位互換コア科目（地域教育科目）の履修状況

単位互換コア科目である「地域の課題Ⅰ」「地域の課題Ⅱ」「地域課題演習」の3科目は、東北学院大学の地域教育科目群というミニカリキュラムに位置づけ、ディープ・アクティブラーニングの考え方を基にして検討・設計した。2016年度より東北学院大学文学部・教養学部2学部に於いて「地域の課題Ⅰ」から順次開講し、2018年度には東北学院大学の全6学部で開講した。東北学院大学の地域教育科目としては、2016年度から2019年度までの間に、のべ4,475名が履修登録し、4,119名が単位を取得した。併行して2018年度からは学都仙台単位互換ネットワークの制度を活用し、「地域の課題Ⅰ」「地域の課題Ⅱ」「地域課題演習」を単位互換科目として開講し、のべ292名が履修登録し、226名が単位を取得した。なお、「地域課題演習」を単位互換として履修する学生はいなかった。

具体的な履修状況と学生の単位取得者数は以下のとおりである。

【東北学院大学各学部別の履修状況】

(単位：名)

		地域の課題Ⅰ		地域の課題Ⅱ		地域課題演習		地域の課題Ⅰ (再履修)		履修者 合計	単位 取得者 合計
		履修者	単 位 取得者	履修者	単 位 取得者	履修者	単 位 取得者	履修者	単 位 取得者		
2016 年度	文学部	235	219	0	0			21	10	537	479
	教養学部	254	230	5	4			22	16		
2017 年度	文学部	181	172	4	4	0	0	6	3	449	424
	教養学部	253	242	4	2	0	0	1	1		
2018 年度	工学部	282	265	4	4			0	0	1,638	1,547
	文学部	237	227	4	3	0	0	5	3		
	経済学部	284	273	11	11			13	11		
	経営学部	246	231	47	46			9	7		
	法学部	213	207	1	0			9	4		
	教養学部	257	241	5	5	1	1	10	8		
2019 年度	工学部	302	268	7	5	3	3	0	0	1,851	1,669
	文学部	169	144	4	1	5	5	31	24		
	経済学部	281	267	11	8	6	6	21	21		
	経営学部	406	363	45	42	10	10	19	19		
	法学部	233	216	1	1	0	0	8	8		
	教養学部	258	231	9	8	3	3	19	16		
総合計										4,475	4,119

【単位互換科目の履修状況】

※高校生を含む

(単位：名)

		地域の課題Ⅰ		地域の課題Ⅱ		地域課題演習		履修者 合計	単位 取得者 合計
		履修者	単 位 取得者	履修者	単 位 取得者	履修者	単 位 取得者		
2018 年度	東北工業大学	15	13	0	0	0	0		
	仙台白百合女子大学	10	10	0	0	0	0		
	尚綱学院大学	10	9	0	0	0	0		
	宮城学院女子大学	8	6	0	0	0	0		
	聖和学園短期大学	9	6	0	0	0	0		
	仙台高等専門学校（4～5年）	6	4	0	0	0	0		
	仙台高等専門学校（1～3年）	29	23						
	東北生活文化大学	4	3	0	0	0	0		
	仙台大学	2	2	0	0	0	0		
	宮城大学	3	3	0	0	0	0		
	東北芸術工科大学	3	3	0	0	0	0		
	東北福祉大学	2	2	0	0	0	0		
	合計（2018年度）	101	84	0	0	0	0	101	84
2019 年度	仙台高等専門学校（4～5年）	36	25	25	17	0	0		
	仙台高等専門学校（2～3年）	10	10						
	東北工業大学	28	22	16	10	0	0		
	尚綱学院大学	18	17	0	0	0	0		
	仙台白百合女子大学	14	11	8	3	0	0		
	仙台大学	4	4	0	0	0	0		
	東北学院大学	7	3	7	6	0	0		
	聖和学園短期大学	5	2	0	0	0	0		
	宮城学院女子大学	1	1	0	0	0	0		
	宮城大学	2	2	0	0	0	0		
	常盤木学園高等学校	6	5						
	東北学院中学校・高等学校	3	3						
	仙台市立仙台高等学校	1	1						
	合計（2019年度）	135	106	56	36	0	0	191	142
総合計（2018～2019年度）		236	190	56	36	0	0	292	226

（２）単位互換コア科目（地域教育科目）の設計と改善

東北学院大学の必修科目である「地域の課題Ⅰ」については、2016 年度は地域企業の課題を見いだすことをテーマに、経営のフレームワークである戦略マップの「財務」「顧客」「プロセス」「学習と成長」の４つの視点を用い、「フレームワークの活用」「課題発見の方法」「論理的思考」の三点を重視したプログラムとして設計した。このプログラムでは、受講生からの授業の難易度についての評価が大きく分かれ、高い関心を持った学生もいた一方、経営系の情報の理解が追いつかないというフィードバックがあった。

これらを受けて 2017 年度以降は、地域企業の課題を見いだすというテーマはそのままに、受講生の学習経験を基礎として、自らの所属学部・学科の学びをふりかえり、意味づけすることによって、自分の専門性に基づいたフレクワークを構築した。これにより自己と世界との関係をより強く認識した上で企業の課題抽出を行い、自らの個性や能力を実社会で発揮することを学ぶプログラムとした。また、地域高度人材指標を活用した学生評価の実施や検証・改善の取り組みも開始した。

2017 年度及び 2018 年度も受講学生と参加教職員からのフィードバックを得てプログラム改善を行い、2019 年度には「地域企業の課題を見いだす」というテーマを維持し、「自らの切り口」を持った上で「世界、日本、宮城県の経済や企業の現状を理解・分析し、それをもとに将来像を描く」ことに重点を置いた教育プログラムとした。

○各科目別の学習内容

2016 年度から検討を重ねた本事業の単位互換コア科目である教育プログラムは、2019 年度には次の 5 科目を実施した。

東北学院大学「地域の課題Ⅰ」

1) 概略

科目名称	地域の課題Ⅰ(地域企業版)
テーマ	様々な事象が地理的、歴史的、文化的、さらには経済的、科学技術的な文脈に深く埋め込まれ、かつ、今後はグローバルにもつながることが想定される地域企業の課題発見
講義内容	担当教員の企業経営や自治体経営に対するコンサルティングの実務経験を踏まえて、以下の項目について学ぶ 1. 日本と宮城県地域の経済の現状と今後の可能性について 2. 事象を読み解く視点と要素 3. 事例研究：地域内企業がどのように発展しようとしているか 4. 事例研究：地域内企業の発展の可能性を考える これらを通して、自己と世界の関係性を認識し、「知的活動のためのコア能力」としての①メタ学習能力、②フレームワーク活用能力、③多様性受容能力の三つの強化を図る
達成目標	①自らの学習プロセスを説明できるようになる ②講義で取り扱う地域企業の課題を論理的に示すことができる ③異なる分野の考えを取り入れて、より多面的に課題を示せるようになる

2) 講義スケジュール(予定)

	枠組	概要	事前事後の学修
第01回	ガイダンス ～なぜ地域をテーマに学ぶのか～	・この授業の目的と到達目標、内容、学び方、留意事項について詳しく説明する ・評価指標の提示：この授業で重視する「知的活動のコア能力」について概説し、この授業の評価指標とルーブリックを示す ※事前アセスメントを実施	【事前学修】シラバスを事前に読み、その内容を理解する 【事後学修】評価指標の内容を理解し、自らの学習計画を立てる
第02回	事例研究1 (1)地域の製造業－製造業のしくみと利益－	・企業経営に対するコンサルティングの実務経験をともに作成したフレームワークを用いて、企業のあり方や利益についての概略を学び、ケース企業を題材に製造業の基本的な仕組みや流れを理解する ・ケース企業が利益を上げるために行っている具体的な取組について議論する	【事前学修】地域企業の事例に関する事前配布資料を読み、概要を理解する 【事後学修】授業内での議論を踏まえてケース企業のビジネスモデルを評価する
第03回	事例研究1 (2)地域の製造業－社会の変化と地域の産業－	・企業経営に対するコンサルティングの実務経験をともに作成したフレームワークを用いて、企業と顧客の関係、企業と地域の地理的歴史的な文脈との関係を学ぶ ・ケース企業の取組を地域の文脈の中でどのように理解すべきか議論する	【事前学修】ケース企業のビジネスモデルを評価する 【事後学修】授業の内容を踏まえて、ケース企業にまつわる地域の文脈を整理する
第04回	事例研究1 (3)地域の製造業－地域産業の変化－	・企業経営に対するコンサルティングの実務経験をともに作成したフレームワークを用いて、ケース企業の強みとその源泉について考える ・今後の社会の変化と、それに対する地域企業の対応について学び、ケース企業を例に議論する	【事前学修】授業の内容を踏まえて、ケース企業の強みとその源泉、有利に作用する外部環境についてまとめる 【事後学修】第2回～第4回の授業内容を踏まえて、企業を見る際の視点と要素をまとめ、自分の専門性との関係を考える
第05回	世界を見る視点(切り口)と要素	・事象を理解するためのフレームワークについて解説し、システムとして地域を見る際の視点と要素を学ぶ ・企業経営を理解するための初歩的なフレームワークについて学び、ケース企業の事例に適用する	【事前学修】これまでの学習経験の中で、自分自身が未知の事象に出会った時にどのような見方や行動をしてきたかをまとめる 【事後学修】自分自身についてクロスSWOT分析を実施し、これから自分の人生をどのように切り開くかをまとめる
第06回	課題設定の方法	・将来像と課題、問題の関係を学ぶ ・ケース企業を題材に、内部資源と外部環境から将来像を描き、そこに至る課題について個人／グループで考察する	【事前学修】自分自身を例にクロスSWOT分析を実施し、理解しやすい点、しにくい点を明らかにする 【事後学修】次回以降使用するケース教材を読み込み、ケース企業の成長要因をまとめる
第07回	事例研究2 (1)製造販売業の起業－製造販売のビジネスモデル－	・企業経営に対するコンサルティングの実務経験をともに作成したフレームワークを用いて、企業活動を理解する手法を学ぶ ・学んだフレームワークを用いて、ケース企業のビジネスモデルの概略について個人／グループで考察する	【事前学修】外部環境と内部資源の両面からケース企業の成長要因をまとめる 【事後学修】ケース企業に対するクロスSWOT分析を実施する
第08回	事例研究2 (2)製造販売業の起業－ケース企業の活動－	・ケース企業の創業プロセスから、企業と地域の関わりを考える ・地域との関わりを踏まえたケース企業の将来像について個人／グループで考察する	【事前学修】ケース企業に対するクロスSWOT分析の結果をもとに望ましい将来像を考える 【事後学修】ケース企業の将来像とそこに至る課題について考察し、まとめる
第09回	事例研究2 (3)製造販売業の起業－ケース企業の将来像と課題－	・企業経営に対するコンサルティングの実務経験をともに作成したフレームワークを用いて、ケース企業の将来像について吟味する ・ケース企業の将来像と課題について自ら考えたことに対して他者の批判を受ける	【事前学修】ケース企業の課題を細分化し、解決の可能性について考察する 【事後学修】授業内で受けた批判を踏まえて、ケース企業の将来像と課題についての自らの考えを修正する
第10回	日本経済の動きと地域の経済	・戦後の日本経済の動きを概観し、その中で宮城県／仙台市の立ち位置を理解する ・宮城県と仙台市の経済の現状と産業政策について理解する	【事前学修】「仙台市経済成長戦略2023～豊かさを実感できる仙台・東北を目指して～(骨子)」を読み、概要を理解する https://www.city.sendai.jp/keizai-chosei/kurashi/machi/kezaikoyo/koyo/jore/documents/senryakukosshi.pdf 【事後学修】宮城県と仙台市の産業政策の是非について、自らの考えを構築する
第11回	日本と世界の技術と経済	・Society5.0を題材に、ITやAIの発展を前提とした今後の社会像を考える ・複雑な問題への対処として統合的ケイバリティの考え方を理解する ・これらを組み合わせて、今後自分たちが生きていく社会の姿をイメージする	【事前学修】「日本再興戦略2016-第4次産業革命に向けて-」を読み、概要を理解する https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf 【事後学修】今後自分たちが生きていく社会にどのような姿勢で対峙すべきかを考察し、まとめる
第12回	事例研究3 (1)地域を支える企業－サービス業(旅館業)のビジネスモデル－	・地域企業の例として旅館業のビジネスモデルを分析し、それを通して宮城県／仙台市の事業環境を理解する ・ケース企業に関する外部環境、内部資源、優位性について個人／グループで考察する	【事前学修】宮台のビジネスホテルを取り巻く環境の変化について調査し、まとめる
第13回	事例研究3 (2)地域を支える企業－サービス業(旅館業)の強みと可能性－	・企業経営に対するコンサルティングの実務経験をともに作成したフレームワークを用いて、ケース企業のビジネスモデルを分析し、商品／サービスやビジネスモデルの変革の可能性について個人／グループで考察する	【事前学修】ケース企業にとって、①今後機会となる外部環境、②それにマッチする内部環境の強みについて考える 【事後学修】ケース企業の変革の可能性を考え、まとめる
第14回	事例研究3 (3)地域を支える企業－サービス業(旅館業)の将来像と課題－	・企業経営に対するコンサルティングの実務経験をともに作成したフレームワークを用いて、ケース企業の将来像と課題について、個人／グループで考察する	【事前学修】ケース企業の変革の可能性を踏まえた適切な将来像と課題について考え、まとめる 【事後学修】これまでの授業内容を踏まえて課題設定に関するポイントをまとめる
第15回	ふりかえり	・これまでの講義の内容を振り返り、コンセプトマップ上にまとめ、これまでに学んだ知識の関連性を整理する ・コンセプトマップの内容をチーム内で共有し、他者の学びと自分の学びを比較する ※事後アセスメントを実施	【事前学修】これまでの授業で学んだ事柄のうち、今後の専門の学びに対して重要であると思われるものを30個程度抽出する 【事後学修】授業内での議論を踏まえて自分自身の学びの構造について考察する

3) 成績評価等

成績評価方法	ミニッツペーパー 100% 毎回授業終了時にミニッツペーパーを提出する。 ミニッツペーパーの問いは、この授業を通して強化すべき①メタ学習能力、②フレームワーク活用能力、③多様性受容能力に関するものとし、毎回の能力の向上に資する問いであるかを示す。 各回講義時に前回ミニッツペーパーの設問の意図や、今後の学習に対する助言も含めて解説し、形成的評価とする。
学修に必要な準備	普段の学部の授業での学びを表面的に捉えるのではなく、他の事象に適用するという観点で捉える努力をしてください。地域企業の取り組みに関するニュース、特集番組などを視聴する、新聞記事を読む、といったことを心がけると講義の内容がより深く理解できます。
関連して受講することが望ましい科目	「震災と復興」「地域の課題Ⅱ(地域企業版)」「地域課題演習(地域企業版)」
テキスト、参考文献	使用しません
履修上の注意	この授業は一方向的講義で終始するものではありません。他の受講生とのディスカッションや、授業時間外の調査も必要になりますので、その心づもりを持って受講してください。ただし、何らかの事情でグループワークへの参加が困難な学生に対しては必要な対応を行いますので担当教員に申告してください。 オフィスアワー等についてはガイダンス時に指示します。 (注意) 必要に応じて、地域課題版と地域企業版の間で受講者の人数調整をする場合があります。

単位互換科目「地域の課題Ⅰ」

1) 概略

科目名称	地域の課題Ⅰ	単位数 2単位
テーマ	様々な事象が地理的、歴史的、文化的、さらには経済的、科学技術的な文脈に深く埋め込まれ、かつ、今後はグローバルにもつながることが想定される地域の課題発見	
講義内容	担当教員の企業経営や自治体経営に対するコンサルティングの実務経験や、プロジェクト型学習の実践経験を踏まえて、以下の項目についてワークを主体とした学習方法で学ぶ 1. 地域の経済の現状と今後の可能性 2. 事象を読み解く視点と要素 3. 地域の可能性とそこに至るために解決すべき課題 これらを通して、自己と世界の関係性を認識し、「知的活動のためのコア能力」としての①メタ学習能力、②フレームワーク活用能力、③多様性受容能力の三つの強化を図る	
達成目標	①自らの学習プロセスを説明できるようになる ②講義で取り扱う地域の課題を論理的に示すことができる ③異なる分野の考えを取り入れて、より多面的に課題を示せるようになる	

2) 講義スケジュール(予定)

	枠組	概要	事前事後の学修
第01回	ガイダンス ～なぜ地域をテーマに学ぶのか～	ガイダンス:この授業の目的と到達目標、内容、学び方、留意事項について理解する	【事前学修】事前に提示する学習フィールドに関するデータを読み込み自分なりに解釈する 【事後学修】授業内で実施する調査(デスクリサーチ、フィールドワーク)の計画を作成する
第02回	フィールド紹介	チームビルディング:協同学習のためのチームをつくりチームリーダーを選出する 講義:事前課題とした資料をもとに、課題抽出に取り組むフィールドとなる地域の概要を学ぶ	【事前学修】事前に提示する学習フィールドに関するデータを読み込み自分なりに解釈する 【事後学修】授業内で実施する調査(デスクリサーチ、フィールドワーク)の計画を作成する
第03回	フィールドの概要理解	講義:フィールドとなる地域の現状や歴史的文脈を学ぶ ワーク:事前課題と講義をもとに、フィールドとなる地域の現状について、チームごとの視点でまとめる	【事前学修】事前に提示する学習フィールドに関するデータを読み込み自分なりに解釈する 【事後学修】授業内で実施する調査(デスクリサーチ、フィールドワーク)の計画を作成する
第04回	調査と課題抽出の手法	講義:調査手法としてのデスクリサーチとフィールドワークの基本的な手法について学ぶ 講義:課題抽出の方法についての基本的なフレームワークを学ぶ	【事前学修】事前に提示する学習フィールドに関するデータを読み込み自分なりに解釈する 【事後学修】授業内で実施する調査(デスクリサーチ、フィールドワーク)の計画を作成する
第05回	ブレ調査	ワーク:対象地域・企業に赴き、フィールドワーク上の留意点を見いだす ワーク:調査計画案を作成し、教員の評価を受ける	【事前学修】事前に提示する学習フィールドに関するデータを読み込み自分なりに解釈する 【事後学修】授業内で実施する調査(デスクリサーチ、フィールドワーク)の計画を修正する
第06回 第07回	調査	ワーク:事前に作成した計画に基づきフィールドワークとデスクリサーチを実施する	【事前学修】授業中に提示するフィールドワーク・現状分析・将来像設定のためのフレームワークに関する資料を読み込み理解する 【事後学修】授業内で実施する調査の結果を踏まえた地域の将来像とそこに至るための課題に関する個人素案を作成・修正する
第08回	現状と将来像	ワーク:調査結果をもとに対象地域の現状をワークシートにまとめ、その内容を吟味する ワーク:調査結果をもとに対象地域の可能性を議論し、目指すべき将来像を描く	【事前学修】授業中に提示するフィールドワーク・現状分析・将来像設定のためのフレームワークに関する資料を読み込み理解する 【事後学修】授業内で実施する調査の結果を踏まえた地域の将来像とそこに至るための課題に関する個人素案を作成・修正する
第09回	将来像の設定とプレゼンテーション	ワーク:対象地域の現状、可能性をプレゼンテーション用シートにまとめる ビジョンプレゼンテーション:自らの視点から見た対象地域の可能性についてプレゼンテーションを行い教員の評価を受ける	【事前学修】授業中に提示するフィールドワーク・現状分析・将来像設定のためのフレームワークに関する資料を読み込み理解する 【事後学修】授業内で実施する調査の結果を踏まえた地域の将来像とそこに至るための課題に関する個人素案を作成・修正する
第10回	プレゼンテーションと課題抽出の手法	ビジョンプレゼンテーション:自らの視点から見た対象地域の可能性についてプレゼンテーションを行い教員の評価を受ける 講義:課題抽出の手法について学ぶ	【事前学修】授業中に提示するフィールドワーク・現状分析・将来像設定のためのフレームワークに関する資料を読み込み理解する 【事後学修】授業内で実施する調査の結果を踏まえた地域の将来像とそこに至るための課題に関する個人素案を作成・修正する
第11回	課題抽出シートの作成	ワーク:自らの視点から見た対象地域の可能性と課題をまとめて視覚化する	【事前学修】授業中に提示する課題抽出のためのフレームワークに関する資料を読み込み理解する 【事後学修】授業内でのフィードバックやふりかえりを踏まえて、課題プレゼンテーションの内容を修正する
第12回	課題抽出シートの修正	ワーク:自らの視点から見た対象地域の可能性と課題に対して教員からフィードバックをうけ、それをもとに適切な論拠を伴うプレゼンテーション資料をまとめる	【事前学修】授業中に提示する課題解決のためのフレームワークに関する資料を読み込み理解する 【事後学修】授業内でのフィードバックやふりかえりを踏まえて、課題プレゼンテーションの内容を修正する
第13回 第14回	課題プレゼンテーション	プレゼンテーション:対象地域の将来像と課題について、適切な論拠を伴うプレゼンテーションを行い、教員からの評価を受ける	【事前学修】授業中に提示する課題解決のためのフレームワークに関する資料を読み込み理解する 【事後学修】授業内でのフィードバックやふりかえりを踏まえて、課題プレゼンテーションの内容を修正する
第15回	学習経験のふりかえり	ワーク:この授業における学習経験を言語化し、今後の学習をどのように改善するかについて議論する	【事前学修】授業中に提示する課題解決のためのフレームワークに関する資料を読み込み理解する 【事後学修】授業内でのフィードバックやふりかえりを踏まえて、課題プレゼンテーションの内容を修正する

3) 成績評価等

成績評価方法	調査計画と実施記録 20% ・デスクリサーチの項目は適切であるか(5/20) ・デスクリサーチのスケジュールは適切であるか(5/20) ・フィールドワークの項目は適切であるか(5/20) ・フィールドワークのスケジュールは適切であるか(5/20) ビジョンプレゼンテーション 30% ・フレームワークを活用した論理の構成になっているか(15/30) ・多様性を受け入れ、複雑な問題をより大きな視野で捉えているか(10/30) ・対象者に伝わりやすいプレゼンテーションとなっているか(5/30) 課題プレゼンテーション 30% ・フレームワークを活用した論理の構成になっているか(15/30) ・多様性を受け入れ、複雑な問題をより大きな視野で捉えているか(10/30) ・対象者に伝わりやすいプレゼンテーションとなっているか(5/30) ふりかえりシート 20% ・授業全体をふりかえり自らの学習体験の意味を適切に言語化できているか(10/20) ・多様性を受け入れ、自らの考えに対して批判的な態度をとることができるか(10/20)
学修に必要な準備	普段の学部の授業での学びを表面的に捉えるのではなく、他の事象に適用するという観点で捉える努力をしてください。地域に関するニュース、特集番組などを視聴する、新聞記事を読む、といったことを心がけると講義の内容がより深く理解できます。
関連して受講することが望ましい科目	「地域の課題Ⅱ」「地域課題演習」
テキスト、参考文献	使用しません
履修上の注意	この授業は一方的な講義で終始するものではありません。他の受講生とのディスカッションや、授業時間外の調査も必要になりますので、その心づもりを持って受講してください。自分なりの考えを論拠／証拠とともに表明できるようになることが必要です。 開講日は2019年8月20・21・22日、場所は東北学院大学土樋キャンパスを予定しています。

東北学院大学「地域の課題Ⅱ」

1) 概略

科目名称	地域の課題Ⅱ（地域企業版）
テーマ	様々な事象が地理的、歴史的、文化的、さらには経済的、科学技術的な文脈に深く埋め込まれ、かつ、今後はグローバルにもつながることが想定される地域企業の課題発見と解決提案
講義内容	地域の課題Ⅰ（地域企業版）の内容を踏まえ、地域企業の経営者に対するインタビューと関連項目の調査を通じて、その企業の課題を明らかにする。その上で、自分自身を取り組むという仮定のもとに、課題解決のためのプロジェクトを設計する。その過程で、自己と世界の関係性を認識し、自らの個性や能力を現実社会の事業や仕事の中で存在感のある形で発揮することを体験的に学ぶ。プロジェクトの設計に際しては、授業担当者の、企業経営に対するコンサルティングや企業の経営革新に関するプロジェクト設計の実務経験を活用し、適切なフレームワークを用いて実践する。
達成目標	地域企業の経営者に対するインタビューと関連項目の調査を通じて、その企業の課題解決のために自らが取り組むプロジェクトを設計する。その過程で、既存の知識を組み合わせて事象を解釈し、新たな知を生み出すための仮説設定ができるようになるための能力として、①戦略的計画の策定能力、②価値判断能力、③信頼関係構築能力の三つの強化を図る。

2) 講義スケジュール(予定)

	枠組	概要	事前事後の学修
第01回	ガイダンス	ガイダンス:この授業の目的と到達目標、内容、学び方、留意事項について詳しく説明し、インタビュー対象企業の概略を紹介する 評価指標の提示:この授業で重視する「知的活動のコア能力」について概説し、この授業の評価指標と評価規程を示す ※事前アセスメントを実施	【事前学修】シラバスを事前に読み、その内容を理解する 【事後学修】ガイダンスを踏まえてこの科目における自らの学びの姿勢について考察する
第02回	インタビュー調査の基礎(1)	グループワーク:事前調査の結果を踏まえて模擬インタビューを実施し、そこから得られた情報をまとめる。それに対して教員からのフィードバックを得る 講義:企業の現状把握のためのヒアリング項目と内容	【事前学修】事前配布資料を読み込み、インタビュー対象企業の外部環境について調べる 【事後学修】授業の内容を踏まえてインタビュー対象企業に対するヒアリング項目を抽出する
第03回	インタビュー調査の基礎(2)	グループワーク:模擬インタビューを実施し、そこから得られた情報を文章としてまとめる。それに対して教員からのフィードバックを得る	【事前学修】インタビュー対象企業に対するヒアリングシートを作成する 【事後学修】教員からのフィードバックをもとに自分自身の文章を修正する
第04回	ヒアリングシートの設計	グループワーク:インタビューする企業の現状を理解するために必要な情報を洗い出す。その上で経営者インタビューの際に用いるヒアリングシートを作成する	【事前学修】インタビューする企業に関する既存情報を整理しヒアリング項目を整理する 【事後学修】授業の内容を踏まえてヒアリングシートを完成させる
第05回 第06回	経営者インタビュー	実践:自らが作成したヒアリングシートを用いて、地域企業の経営者に課題抽出のためのインタビューを実施する	【事前学修】第4回の議論と講義の内容をもとに、ヒアリングシートを完成させる 【事後学修】インタビューをもとに当該企業の現状を紹介する文章を作成する
第07回	地域企業の現状	グループワーク:企業ごとに作成した内容を共有し、他の受講生や教員からのフィードバックをうける 講義:企業経営に対するコンサルティングの実務経験をもちに作成したフレームワークを用いて、地域企業の将来像と課題について学ぶ グループワーク:当該企業の将来像や課題を見いだすために必要なヒアリング項目を抽出する	【事前学修】インタビューをもとに「企業ケースシート」の当該企業の現状に関する項目を作成する 【事後学修】授業内のディスカッションを踏まえて「企業ケースシート」の当該企業の現状に関する項目を修正する
第08回	再インタビューの設計	グループワーク:前回のブラッシュアップを元に、企業の再ヒアリングの項目やインタビューの流れを設計し、教員からのフィードバックを受ける	【事前学修】経営者に対する再インタビューの項目を宿題シートにまとめる 【事後学修】授業内でのフィードバックを踏まえてヒアリング項目やインタビューの流れを修正する
第09回 第10回	経営者インタビュー	実践:自らが作成したヒアリングシートを用いて、地域企業の経営者に課題抽出のためのインタビューを実施する	【事前学修】第7回、第8回の議論と講義の内容をもとに、再インタビューのためのヒアリングシートを完成させる 【事後学修】インタビューをもとに当該企業の将来像と課題を紹介する文章を作成する
第11回	地域企業の課題抽出	グループワーク:事前に絞り込んだ当該企業の課題について、妥当性を議論する 講義:企業経営に対するコンサルティングの実務経験をもちに作成したフレームワークを用いて、企業課題解決プロジェクトの設計手順と留意点について解説する	【事前学修】インタビューの結果を、「企業ケースシート」にまとめる 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の課題を抽出する
第12回	地域企業の課題と解決のためのプロジェクト	グループワーク:当該企業の課題のうち学生自らが取り組むものが効果的なものとして抽出したものに対して、妥当性を議論する 講義:企業経営に対するコンサルティングの実務経験をもちに作成したフレームワークを用いて、企業課題解決プロジェクトの詳細の設計の手順と留意点について解説する	【事前学修】ケース企業の課題を抽出し、学生が取り組むことが解決に結びつきやすいものを選ぶ 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の課題解決プロジェクトの詳細を設計する
第13回	プロジェクト設計	ワーク:当該企業の課題に対して学生自らが取り組むプロジェクトを設計し、授業担当者の、企業の経営革新に関するプロジェクト設計の実務経験を踏まえたフィードバックをもとにブラッシュアップする	【事前学修】当該企業の課題解決プロジェクトにおける成果目標を設定する 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の課題解決プロジェクトを修正する
第14回	プロジェクトブラッシュアップ	グループワーク:これまでの議論をもとに、ヒアリングした企業の現状、課題、それに対して学生自らが取り組むプロジェクトをとりまとめ、授業担当者の、企業の経営革新に関するプロジェクト設計の実務経験を踏まえたフィードバックを元にブラッシュアップする	【事前学修】第13回の議論をもとに「プロジェクトシート」を修正する 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の課題解決プロジェクトを修正する
第15回	プロジェクト発表	全体共有:設計した課題解決プロジェクトの内容を共有し、相互に評価する ※事後アセスメントを実施	【事前学修】教員からのフィードバックをもとに、当該企業の課題解決プロジェクトを完成させる 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の「プロジェクトシート」を完成させる

3) 成績評価等

成績評価方法	ミニッツペーパー 65% 毎回授業終了時にミニッツペーパーを提出する ・ミニッツペーパーの問いは、この授業を通して強化すべき①戦略的計画の策定能力、②価値判断能力、③信頼関係構築能力に加え、その基礎となるメタ学習能力、フレームワーク活用能力、多様性受容能力に関するものとし、毎回の能力の向上に資する問いであるかを示す ・ミニッツペーパーの内容については、次回講義時に設問の意図や、今後の学習に対する助言も含めて解説し、形成的評価とする プロジェクト内容 35% ・対象企業の情報を十分に入手し、現状を適切に分析できているか(15/35) ・当該企業にとって戦略的に意味のあるプロジェクトとなっているか(10/35) ・自ら主体的に取り組むことを前提としたプロジェクトとなっているか(10/35)
学修に必要な準備	授業内では経営に関するフレームワークを提示しますが、それぞれの学部学科の学びの視点が活かされることが重要です。そのため、普段の学部の授業での学びを表面的に捉えるのではなく、他の事象に適用するという観点で捉える努力をしてください。
関連して受講することが望ましい科目	「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」「地域課題演習（地域企業版）」
テキスト、参考文献	使用しません
履修上の注意	この授業は一方向的講義で終始するものではありません。他の受講生とのディスカッションや、授業時間外の調査も必要になりますので、その心づもりを持って受講してください。 オフィスアワー等についてはガイダンス時に指示します。 ※現実の企業課題に取り組むしますので、情報管理に関する教員の注意事項を守ってください。

単位互換科目「地域の課題Ⅱ」

1) 概略

科目名称	地域の課題Ⅱ	単位数	2単位
テーマ	様々な事象が地理的、歴史的、文化的、さらには経済的、科学技術的な文脈に深く埋め込まれ、かつ、今後はグローバルにもつながることが想定される地域企業の課題発見と解決提案		
講義内容	地域の課題Ⅰの内容を踏まえ、地域企業の経営者に対するインタビューと関連項目の調査を通じて、その企業の課題を明らかにする。その上で、自分自身が取り組むという仮定のもとに、課題解決のためのプロジェクトを設計する。その過程で、自己と世界の関係性を認識し、自らの個性や能力を現実社会の事業や仕事の中で存在感のある形で発揮することを体験的に学ぶ。プロジェクトの設計に際しては、授業担当者の、企業経営に対するコンサルティングや企業の経営革新に関するプロジェクト設計の実務経験を活用し、適切なフレームワークを用いて実践する。		
達成目標	地域企業の経営者に対するインタビューと関連項目の調査を通じて、その企業の課題解決のために自らが取り組むプロジェクトを設計する。その過程で、既得の知識を組み合わせて事象を解釈し、新たな知を生み出すための仮説設定ができるようになるための能力として、①戦略的計画の策定能力、②価値判断能力、③信頼関係構築能力の三つの強化を図る。		

2) 講義スケジュール(予定)

	枠組	概要	事前事後の学修
第01回	ガイダンス	ガイダンス:この授業の目的と到達目標、内容、学び方、留意事項について詳しく説明し、インタビュー対象企業の概略を紹介する 評価指標の提示:この授業で重視する「知的活動のコア能力」について概説し、この授業の評価指標と評価規程を示す ※事前アセスメントを実施	【事前学修】シラバスを事前に読み、その内容を理解する 【事後学修】ガイダンスを踏まえてこの科目における自らの学びの姿勢について考察する
第02回	インタビュー調査の基礎(1)	グループワーク:事前調査の結果を踏まえて模擬インタビューを実施し、そこから得られた情報をまとめる。それに対して教員からのフィードバックを得る 講義:企業の現状把握のためのヒアリング項目と内容	【事前学修】事前配布資料を読み込み、インタビュー対象企業の外部環境について調べる 【事後学修】授業の内容を踏まえてインタビュー対象企業に対するヒアリング項目を抽出する
第03回	インタビュー調査の基礎(2)	グループワーク:模擬インタビューを実施し、そこから得られた情報を文章としてまとめる。それに対して教員からのフィードバックを得る	【事前学修】インタビュー対象企業に対するヒアリングシートを作成する 【事後学修】教員からのフィードバックをもとに自分自身の文章を修正する
第04回	ヒアリングシートの設計	グループワーク:インタビューする企業の現状を理解するために必要な情報を洗い出す。その上で経営者インタビューの際に用いるヒアリングシートを作成する	【事前学修】インタビューする企業に関する既存情報を整理しヒアリング項目を整理する 【事後学修】授業の内容を踏まえてヒアリングシートを完成させる
第05回 第06回	経営者インタビュー	実践:自らが作成したヒアリングシートを用いて、地域企業の経営者に課題抽出のためのインタビューを実施する	【事前学修】第4回の議論と講義の内容をもとに、ヒアリングシートを完成させる 【事後学修】インタビューをもとに当該企業の現状を紹介する文章を作成する
第07回	地域企業の現状	グループワーク:企業ごとに作成した内容を共有し、他の受講生や教員からのフィードバックをうける 講義:企業経営に対するコンサルティングの実務経験をもとに作成したフレームワークを用いて、地域企業の将来像と課題について学ぶ グループワーク:当該企業の将来像や課題を見いだすために必要なヒアリング項目を抽出する	【事前学修】インタビューをもとに「企業ケースシート」の当該企業の現状に関する項目を作成する 【事後学修】授業内のディスカッションを踏まえて「企業ケースシート」の当該企業の現状に関する項目を修正する
第08回	再インタビューの設計	グループワーク:前回のブラッシュアップを元に、企業の再ヒアリングの項目やインタビューの流れを設計し、教員からのフィードバックを受ける	【事前学修】経営者に対する再インタビューの項目を宿題シートにまとめる 【事後学修】授業内でのフィードバックを踏まえてヒアリング項目やインタビューの流れを修正する
第09回 第10回	経営者インタビュー	実践:自らが作成したヒアリングシートを用いて、地域企業の経営者に課題抽出のためのインタビューを実施する	【事前学修】第7回、第8回の議論と講義の内容をもとに、再インタビューのためのヒアリングシートを完成させる 【事後学修】インタビューをもとに当該企業の将来像と課題を紹介する文章を作成する
第11回	地域企業の課題抽出	グループワーク:事前に絞り込んだ当該企業の課題について、妥当性を議論する 講義:企業経営に対するコンサルティングの実務経験をもとに作成したフレームワークを用いて、企業課題解決プロジェクトの設計手順と留意点について解説する	【事前学修】インタビューの結果を、「企業ケースシート」にまとめる 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の課題を抽出する
第12回	地域企業の課題と解決のためのプロジェクト	グループワーク:当該企業の課題のうち学生自らが取り組むのが効果的なものとして抽出したものに対して、妥当性を議論する 講義:企業経営に対するコンサルティングの実務経験をもとに作成したフレームワークを用いて、企業課題解決プロジェクトの詳細の設計の手順と留意点について解説する	【事前学修】ケース企業の課題を抽出し、学生が取り組むことが解決に結びつきやすいものを選ぶ 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の課題解決プロジェクトの詳細を設計する
第13回	プロジェクト設計	ワーク:当該企業の課題に対して学生自らが取り組むプロジェクトを設計し、授業担当者の、企業の経営革新に関するプロジェクト設計の実務経験を踏まえたフィードバックをもとにブラッシュアップする	【事前学修】当該企業の課題解決プロジェクトにおける成果目標を設定する 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の課題解決プロジェクトを修正する
第14回	プロジェクトブラッシュアップ	グループワーク:これまでの議論をもとに、ヒアリングした企業の現状、課題、それに対して学生自らが取り組むプロジェクトをとりまとめ、授業担当者の、企業の経営革新に関するプロジェクト設計の実務経験を踏まえたフィードバックを元にブラッシュアップする	【事前学修】第13回の議論をもとに「プロジェクトシート」を修正する 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の課題解決プロジェクトを修正する
第15回	プロジェクト発表	全体共有:設計した課題解決プロジェクトの内容を共有し、相互に評価する ※事後アセスメントを実施	【事前学修】教員からのフィードバックをもとに、当該企業の課題解決プロジェクトを完成させる 【事後学修】授業の内容を踏まえて当該企業の「プロジェクトシート」を完成させる

3) 成績評価等

成績評価方法	ミニッツペーパー 65% 毎回授業終了時にミニッツペーパーを提出する ・ミニッツペーパーの問いは、この授業を通して強化すべき①戦略的計画の策定能力、②価値判断能力、③信頼関係構築能力に加え、その基礎となるメタ学習能力、フレームワーク活用能力、多様性受容能力に関するものとし、毎回の能力の向上に資する問いであるかを示す ・ミニッツペーパーの内容については、次回講義時に設問の意図や、今後の学習に対する助言も含めて解説し、形成的評価とする プロジェクト内容 35% ・対象企業の情報を十分に入手し、現状を適切に分析できているか(15/35) ・当該企業にとって戦略的に意味のあるプロジェクトとなっているか(10/35) ・自ら主体的に取り組むことを前提としたプロジェクトとなっているか(10/35)
学修に必要な準備	授業内では経営に関するフレームワークを提示しますが、それぞれの学部学科の学びの視点が活かされることが重要です。そのため、普段の学部の授業での学びを表面的に捉えるのではなく、他の事象に適用するという観点で捉える努力をしてください。
関連して受講することが望ましい科目	「地域の課題Ⅰ」「地域課題演習」
テキスト、参考文献	使用しません
履修上の注意	この授業は一方的な講義で終始するものではありません。他の受講生とのディスカッションや、授業時間外の調査も必要になりますので、その心づもりを持って受講してください。 オフィスアワー等についてはガイダンス時に指示します。 ※現実の企業課題に取り組むしますので、情報管理に関する教員の注意事項を守ってください。 ※開講日は2019年8月27・28・29日、場所は東北学院大学土樋キャンパスを予定しています。

東北学院大学「地域課題演習」

1) 概略

科目名称	地域課題演習(地域企業版)
テーマ	様々な事象が地理的、歴史的、文化的、さらには経済的、科学技術的な文脈に深く埋め込まれ、かつ、今後はグローバルにもつながることが想定される地域企業の課題解決のための仮説検証
講義内容	「地域の課題Ⅱ(地域企業版)」の講義内容を踏まえ、地域企業の課題解決につながるプロジェクトを実践する。仮説検証を繰り返し、環境を変化させることを通して、新たな知を生み出すプロセスを体験的に学ぶ 担当教員はこれまで全国の実践型インターンシップ等のプロジェクト型学習の設計や運用支援に長年取り組んでおり、そのノウハウを活用してこの授業を実施する
達成目標	地域企業の課題解決プロジェクトを実践し必要な成果を生み出す。その過程で、既存の知識を組み合わせることで事象を解釈し、①目標達成能力、②意思決定能力、③協働能力を強化し、新たな知を生み出すための仮説検証ができるようになる

2) 講義スケジュール(予定)

	枠組	概要	事前事後の学修
第01回	ガイダンス、プロジェクト理解	ガイダンス:この授業の目的と到達目標、内容、学び方、留意事項について詳しく説明し、参画企業の概略を紹介する 評価指標の提示:この授業の評価指標を示し、各項目について具体的に説明する プロジェクト理解:地域企業で取り組むプロジェクトの内容を理解し、自分が取り組むプロジェクトを定める ※事前アセスメントを実施	【事前学修】シラバスを事前に読み、その内容を理解する 【事後学修】自らが参画するプロジェクトの仕様書を読み取組姿勢について考察する
第02回	目標設定	実践型インターンシップのコーディネート及び研究の経験から設計した、以下のグループワークに取り組む 対話型グループワーク:自らが課題解決プロジェクトに取り組む意義や理由を言語化し、共有する 討論型グループワーク:自らが取り組むプロジェクトの成果目標に対して、達成のための仮説を設定し、行動計画を策定する。策定された行動計画に対し、相互に妥当性を議論する	【事前学修】自らが取り組むプロジェクトの仕様書を読み込み、不明点を自分なりの方法で調べ、宿題シートにまとめる 【事後学修】授業の内容を踏まえて自らの行動計画を策定する
第03回	関係性構築	演習実施企業での日常業務に参画し、当該企業の関係者との間に協力的な関係性を構築する	【事前学修】自らの行動計画を策定し、演習実施企業に提出する 【事後学修】定められた様式・方法で日報を提出する
第04回 第05回	関係性構築	演習実施企業での日常業務に参画し、当該企業の関係者との間に協力的な関係性を構築する	【事前学修】当日の実施項目について優先順位をつけて行動計画を定める 【事後学修】定められた様式・方法で日報を提出する
第06回 ～ 第08回	企業の現状把握	演習実施企業での日常業務に参画し、当該企業の現状と事前情報の間に差異がないかを確認する	【事前学修】当日の実施項目について優先順位をつけて行動計画を定める 【事後学修】定められた様式・方法で日報を提出する
第09回 ～ 第14回	仮説検証	演習実施企業での日常業務にも参画しつつ、当該企業の課題解決のための仮説検証に取り組む	【事前学修】当日の実施項目について優先順位をつけて行動計画を定める 【事後学修】定められた様式・方法で日報を提出する
第15回	中間モニタリング	実践型インターンシップのコーディネート及び研究の経験から設計した、以下のグループワークに取り組む 対話型グループワーク:これまでの企業現場での実習を通して、自己の内面にどのような変化があったかをふりかえる 討論型グループワーク:これまでの企業現場での実習をふりかえり、課題解決のための行動や仮説の修正点を抽出する。その上で、新たな行動計画を策定する	【事前学修】これまでの演習での取組内容をモニタリングシートに記入する 【事後学修】自らの新たな行動計画を演習実施企業に提出する
第16回 ～ 第29回	仮説検証	新たな仮説と行動計画に基づいて、演習実施企業での日常業務にも参画しつつ、当該企業の課題解決のための仮説検証に取り組む	【事前学修】当日の実施項目について優先順位をつけて行動計画を定める 【事後学修】定められた様式・方法で日報を提出する
第30回	最終ふりかえり	実践型インターンシップのコーディネート及び研究の経験から設計した、以下のグループワークに取り組む 対話型グループワーク:プロジェクトの成果目標に対する達成度や効果について、教員を交えて相互評価する 対話型グループワーク:演習の全プロセスをふりかえり、その中での体験がどのような学びに繋がったかを言語化し、共有する ※事後アセスメントを実施	【事前学修】これまでの演習での取組内容をモニタリングシートに記入する 【事後学修】授業内でのディスカッションを踏まえてふりかえりシートを完成させる

3) 成績評価等

成績評価方法	以下の方法で評価する。評価規準となるチェックリストを授業開始時に配布する。 日報の内容 50% ・日々の実習における事実関係が明確に記載され、それに対する意味付けが十分になされているかを確認し、個別にフィードバックを実施する ・自らの活動をふりかえるメタ学習の取り組みを通して、意思決定、協働、仮説検証の能力の向上を図るための形成的評価を行う ふりかえりの内容(仮説検証プロセス) 20% ・一定期間の取り組みを適切にふりかえり、それにもとづく新たな意思決定が十分になされているかを確認し、個別にフィードバックを実施する ・仮説検証に基づく意思決定能力の向上を図るための形成的評価を行う プロジェクト成果 30% ・実習開始時に設定した目標に対して、その達成度と、どのような仮説検証を行ったかを確認し、個別にフィードバックを実施する ・プロジェクト全体とその結果をふりかえることで、目標達成能力の向上を図るための形成的評価を行う
学修に必要な準備	この授業では実際の企業現場で課題解決に取り組む中で、仮説検証を繰り返します。与えられた課題をこなすのではなく、自ら仮説を立て行動を通して検証する過程で、自ら知を構築するのだということを理解して臨んでください
関連して受講することが望ましい科目	「地域の課題Ⅰ(地域企業版)」「地域の課題Ⅱ(地域企業版)」
テキスト、参考文献	使用しません
履修上の注意	この授業は地域企業の現場での演習が中心です。教育課程上では通年科目として設定されていますが、現場での活動は夏季休業期間中を想定しています。 詳細やオフィスアワー等については、ガイダンス時(5月～6月予定)に教員より説明します。ガイダンス日時は履修生に追って連絡します。 ※現実の企業課題に取り組みますので、情報管理に関する教員の注意事項を守ってください。



▲「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」の様子



▲「地域の課題Ⅱ（地域企業版）」の様子（左：講義、右：経営者インタビュー）



▲「地域課題演習（地域企業版）」の様子（左：企業実習、右：成果報告会）



▲単位互換科目「地域の課題Ⅰ」の様子

▲単位互換科目「地域の課題Ⅱ」の様子

■教育プログラムの展開と開放

(1) COC+参加校等への展開と単位互換

本事業で実施する教育プログラムの仕組み、特に各科目やカリキュラムの設計、評価手法、学習効果等についての認知を広めるため、各 COC+参加校において、学生の深い学びへの変容を促す仕組みとしてのディープ・アクティブラーニングへの理解を推進する FD/SD 研修を開催した。また教職員を対象にディープ・アクティブラーニングの手法を用いた単位互換コア科目に対する理解を深め、各参加校への導入を促すため、2017 年度には夏期体験講座を開催し、教職員や希望学生を対象とする研修と講座を組み合わせたプログラムを実施した。参加した 21 名のうち 15 名の教職員は、講義設計や担当業務での実践に意欲を示しており、ディープ・アクティブラーニングにつながる講義科目の設計・運用のための具体的な手法について理解が深まったとの回答を得た。

併行して、ディープ・アクティブラーニングに関心を持った参加校からの要請を受ける形で、2016 年度より「ディープ・アクティブラーニングを目指した講義の試行」を実施した。この試行は事業協働機関である 12 高等教育機関のうち、尚絅学院大学、仙台大学、仙台白百合女子大学、東北生活文化大学、宮城学院女子大学、聖和学園短期大学、東北生活文化大学短期大学部の 7 機関 11 名の教員の協力を得て、10 科目のべ 38 回、参観教職員は 93 名、受講学生はのべ 370 名となった。この試行の結果、科目担当の 11 名全員がディープ・アクティブラーニングのねらいや手法について「ある程度は理解ができた」と回答した。また、11 名のうち 9 名が学んだことを自身の授業で実践しており、うち 2 名は「これから実践したい」と意欲的な回答をしている。これらの結果から各 COC+参加校にディープ・アクティブラーニングの環境づくりや運営ノウハウを移転することができたと言える。

【ディープ・アクティブラーニングを目指した講義の試行一覧】

2016 年度

機関名称・科目名称	担当教員	学年	テーマ	実施日時
聖和学園短期大学 「公務員試験対策講座Ⅰ」	鳴海 渉	1	指定管理者制度による 地域の公的施設の管理運営	11月14日、21日 14:20～15:50
仙台白百合女子大学 「地域保健福祉論」	鈴木寿則	2	地域の健康と管理栄養士	1月23日 9:00～10:30 1月26日 10:40～12:10

2017 年度

機関名称・科目名称	担当教員	学年	テーマ	実施日時
東北生活文化大学 「地域栄養活動演習」	栗山孝雄	4	地域の健康と管理栄養士	4月18日、25日 10:40～12:10
聖和学園短期大学 「公務員試験対策講座Ⅱ」	鳴海 渉	2	公立図書館の運営	6月21日、28日 12:40～14:10
宮城学院女子大学 「心理行動セミナーⅢ」	木野和代 大橋智樹	3	地域企業を担う人たちの心理	7月18日、25日 10:30～12:00
宮城学院女子大学 「卒業研究基礎演習Ⅰ」	平本福子	3	企業連携の振り返りと今後	9月21日 14:40～17:50
尚絅学院大学 「地方自治論」	藤本吉則	3	指定管理者制度による公の 施設の管理運営	10月18日、20日、 25日、27日 水曜 8:50～10:20 金曜 12:50～14:20
仙台白百合女子大学 「健康管理概論」 「地域保健福祉論」	鈴木寿則	2	地域の健康と管理栄養士	11月14日 13:00～14:30 14:40～16:10 11月16日 10:40～12:10 13:00～14:30
東北生活文化大学短期大学部 「フードエンタテインメント演習」	池田展敏	2	対象者のニーズ調査に基づ いた「食」に関する企画立案	12月1日、15日、22 日 9:00～10:30
東北生活文化大学 「生活美術特別講義Ⅵ」	北折 整 鶴巻史子 佐藤寛和	3	「キャラクターデザイン・プロデ ュース」ワークショップ	12月25日、26日 終日
聖和学園短期大学 「公務員試験対策講座Ⅰ」	鳴海 渉	1	定禅寺通のアクティビティを 考える	1月15日、22日 14:20～15:50
仙台大学 「全学教養演習」	藤井久雄	2	地域の課題を考える	9月26日～1月30 日 10:20～11:50

（２）学びを深めるための講義外の活動

単位互換コア科目として開講している「地域の課題Ⅰ」は、東北学院大学の必修科目であり、各学部のおよそ半数程度の169～406名の学生がひとつの教室で受講した。この大人数に対応し、かつアクティブラーニングとするため、基本的には地域企業の事例をまとめたケース教材を利用した学習方法としている。ケース教材は、企業の歴史や現在の状況などをまとめたものであり、学生にとっては複雑な企業の状況を概要として理解することができるものの、企業の経営者の想いや現実的な問題等を体験的に理解するには不十分であった。このため、2016年度より毎年「地域の課題Ⅰ（地域企業版）研究会」と題して、企業の経営者等を迎えた特別講義を実施し、経営者の考えや、現実直面した課題等をお話いただき、学生がケーススタディでの思考と現実の違いを知る機会を提供した。

各年度に開催した研究会は以下のとおりである。

○2016 年度

日 時	2016 年 5 月 18 日（水）18：00～19：30
講 師	一條 一平 氏（時音の宿 湯主一條 20 代目当主）
テ ー マ	老舗旅館 湯主一條（宮城県白石市鎌先温泉） 事業再生の道のり
参加者数	77 名 （内訳）東北学院大学 学生 65 名 COC+参加大学の学生 3 名（仙台高等専門学校） COC+参加大学の教職員 9 名（仙台白百合女子大学、尚絅学院大学、 宮城学院女子大学、聖和学園短期大学、東北学院大学）
感 想	・自分たちの強みがなにであるかを理解することが信頼・信用競争の時代を生き抜くことができる。信頼を大事にした徹底したサービスの工夫をしっ かり聞くことができて楽しかった。 ・実際に経営再建をした人の話を聞けるのはなかなかないと思うので興味深 かった。マニュアルで動いているのではなく、何を自分にできるか考えさ せて行動させるようにしているというのがとても印象的だった。

○2017 年度

日 時	2017 年 7 月 19 日（水）18：15～19：30
講 師	田所 寛章 氏（松月産業株式会社 常務取締役）
テ ー マ	松月産業グループ（宮城県仙台市）現状と今後の将来像について
参加者数	21 名 （内訳）東北学院大学 学生 13 名 COC+事業協働機関関係者等 8 名（東北学院大学、尚絅学院大学、 聖和学園短期大学、仙台市、仙台青年会議所）
感 想	・better はあっても best はない。という言葉が印象に残った。多様化に 対応するということは言葉にするのは楽だけど、行動は大変だと思った。 ・「社会に出ると正確はない」という言葉が印象に残りました。今のホテル 業界や社会の動きが分かりました。自分で何が正しい情報なのかを判断 することも大切であると感じました。

○2018 年度

- 日 時 2018 年 6 月 6 日（水）18：15～19：30
- 講 師 草刈 美智子 氏（オーダーメイドジュエリー工房リパッティ代表）
- テ ー マ 現状と今後の展開について
- 参加者数 35 名
（内訳）東北学院大学 学生 31 名
COC+事業協働機関関係者等 4 名（東北学院大学、仙台市、
日本政策金融公庫、JICA）
- 感 想
- ・ 未来予測をすることの重要性というお話が心に残りました。これは AI にできないことで、我々人間しかできないことだと思うので、未来を予測できる力と知識、経験を積み上げていきたいと思いました。
 - ・ 印象に残ったのは、自分の弱点こそが 1 番の個性であり、弱点を正しく理解すれば周りが助けてくれるというものでした。弱点は克服しなければいけないとしか考えたことがなかったので、この際に自分の弱点に向き合って見たいと思いました。

○2019 年度

- 日 時 2019 年 6 月 5 日（水）18：15～19：30
- 講 師 白川 由利枝 氏（仙台市若林区長）
- テ ー マ 持続可能な地域を支える自治体職員とは？
- 参加者数 28 名
（内訳）東北学院大学 学生 17 名
COC+参加大学の学生 7 名（宮城学院女子大学）
COC+事業協働機関関係者 4 名（尚絅学院大学、仙台白百合女子大学、
東北学院大学）
- 感 想
- ・ 地域の課題はとても多方向に数多くあることが分かりましたが、課題を解決するだけでなく、課題と共存して生活するのはありではないのか？ということについて私は考えたこと無かったのでとても印象に残りました。また、いつもの世界からはみだしてみることによって人を鍛え、それぞれを強くし、新しい時代をつくるきっかけになっていくのかなとも思いました。
 - ・ 「結果」ではなく「プロセス」も重要だということが最も印象に残った。まずは、大学でプロセスを意識しながら生活していこうと思った。

■単位互換の推進

(1) 単位互換コア科目の単位互換の推進

単位互換コア科目である「地域の課題Ⅰ」「地域の課題Ⅱ」「地域課題演習」の3科目の単位互換を2018年度から開始した。

実施にあたり、単位互換のための新協定締結または学都仙台コンソーシアム単位互換ネットワーク利用との比較検討や、各教育機関の履修規則等、単位互換に関する取り扱いについての調査を行い、履修に当たって事業協働機関の学生等に不利益や不平等が無いよう調整に努めた。また2016年度から「ディープ・アクティブラーニングを目指した講義の試行」を、2017年度には「夏期体験講座」として単位互換のプロトタイプとなる講座を開講した。これらの機会を活用して、学生に対し、受講意欲がわくようなテーマや教育内容、日時や場所等の受講しやすさ、募集方法、受講目的等を調査し、検証を行った。

併せてより多くの学生が単位互換コア科目を履修するための具体的な広報手段や掲載内容を検討するためのワーキンググループを作り、本事業の教育プログラムに関心を持つと想定される学生像を絞り込み、有効な広報ツールやその掲載内容について、各部会員の広報活動等について整理した。

単位互換の開始直後には、教職員を対象とした単位互換科目の開講についての説明会を本事業に参加する12高等教育機関にて実施した。学生に対しては個別相談に応じる機会を設ける等の取り組みを行い、結果として2018年度と2019年度合わせて「地域課題演習」の受講生はいなかったものの、「地域の課題Ⅰ」「地域の課題Ⅱ」の2科目について、宮城県内14校及び山形県1校より、のべ226名の学生が単位を取得(高校生には受講証明書を発行)した。なお、2018年度には単位互換科目「地域の課題Ⅰ」の未履修学生を対象として、単位互換科目の認知経路や、興味関心、開催日程の都合等を調査し、調査結果を2019年度の開講科目に活用した。

また、単位互換コア科目の開講にあわせ、開講前、講義中、講義後に、受講生や講義担当教員、履修しなかった学生、参観教職員等の関係者からの評価とフィードバックを受けた。

受講生からは、単位互換コア科目を学習することによって身につくと期待される能力や学び、意欲、取り組み姿勢や現状、指標に基づくコンピテンシー等の教育プログラムや指標に関する評価等についてアンケート調査やヒアリング調査を行った。教職員からは教育プログラムに関する満足度や要望等の評価をアンケートによって収集した。

2018年度の単位互換科目「地域の課題Ⅰ」では、事後アンケートから、受講生から多様な意見を共有できること、スピーディな学びや気づきが多く成長を実感できたこと等の魅力が評価されたが、時間配分やグループ分けの具体的な改善と、教員の指導やサポートの改善を求める意見が多くあった。これらの評価を受けて2019年度は、講義内容を地域の課題解決策の提案までではなく、地域の課題設定までとすること、事前にグループ分けをすること、会場を大学キャンパスとすること、部会員を中心として協力教職員を確保すること等を改善した。なお、2018年度と2019年度の単位互換科目の受講生の評価は高く、満足度・理解度ともに80%以上の受講生がこの科目の学習内容について満足した、理解できたと回答した。このことから、受講生はおおむね本教育プログラムについて理解し満足したと考えられる。

社の都仙台を象徴する定禪寺通で

学び、考え、行動する三日間!

他大学の学生と一緒に、
ワールドワークやグループ学習に
 取り組んでみませんか?

COC・単位互換コア科目「地域の課題」! 参加者募集

仙台のまちを舞台に課題解決を学ぶ

テーマ「Re: 定禪寺通」

2018.8.20(月)~22(水)

「地域の課題」は、宮城県の12の大学・短大と宮城県、仙台市、地域企業等が協力して取り組む単位互換科目です。3日間の講座で、まちを調査し、課題を見つけ、解決方法を考えたいします。まちの魅力を発見すると、これからの社会人に求められる「調査能力、解決能力」が身につきます。

**3日間
2単位取得
可能**

科目名称 / 地域の課題! 2単位 (1年次から履修可能)

期 間 / 2018年8月20日(月)~22日(水) 9:00~18:00

場 所 / 宇都仙台コンソーシアムサテライトキャンパスを予定
 仙台市青葉区一番町4-1-3 仙台市市民活動センター2階

参加費用 / 無料

申込方法 / 所属大学・短大・高専の教務・学務担当課等にお申し込みください

申込締切 / 2018年6月29日(金)を予定 ※申込締切は各大学の事前通知に因り変更されておきます。

履修方法 / 宇都仙台単位互換ネットワークによる履修登録

参加対象 / 宇都仙台コンソーシアム参加校の学生。

特に「みやぎせんだい協働教育基金」による地域高度人材の育成」事業協働機関の学生

主催・合同実行 地域協働教育推進機構

〒980-0021 仙台市青葉区一番町4-1-3 (宮城県庁本庁舎)
 TEL: 022-254-1100 (受付) 022-254-1170 (Eメール) info@umc-net.ac.jp URL: <http://umc-net.ac.jp>

※プログラムが変更になる、状況によって変更になる場合があります

8.20 AM 8.21 AM 8.22 AM	AM ●オリエンテーション ●学習テーマとフィールドの紹介 AM ●定期考査フィールドワーク AM ●課題解決アクションの設計	PM ●チームビルディング ●定期考査での現状理解 PM ●現状分析から将来像を描く ●地域の課題発見 ●プレゼンテーション「私が見つけた定期考査の可能性」 PM ●プレゼンテーション「私ならこうする！Re:定期考査」 ●ふりかえり
--	--	--

3日間(2単位)の講座でこれだけ学べる

仙台の中心地でフィールドワークをするから
**だんだん喜ぶ街の魅力が
 再発見できる**

ちがう学校、ちがう学生、ちがう学年の人と
 ディスカッションをから
**コミュニケーション能力
 が上がる**

プレゼンテーションの機会が2回あるから
**プレゼンテーション能力
 が上がる**

課題発見の手法を基盤から学ぶから
**課題発見・解決能力
 が身につく**

参加学生の声

●資料を読み取り、なぜこの年代のデータを取り扱うのか、地域でフィールドワークをやっているのか、理由を3つ述べて議論するというのが、最初はとても面白かった。最後とても楽しかった。いろいろな視点からいろいろな意見がでてきた。おもしろいと感じた。今回は「地域」というテーマだったのが、もっと色々なテーマがあったらいいなと思った。

(仙台白百合女子大学2年)

●定まった人間の視点からみると、私も自分を見ても何ともなかった。その人の視点に立って、その人に見えるところや素晴らしいところや劣っているところや改善すべきところなどいろいろと考えることができる。それがとても面白いことだ。これからいろいろなことを見つけたいことが大切だ。

(宮前学院大学3年)

●授業の進め方に興味を持った。自分の考えとは違う議論が考えられるものではない。一歩一歩丁寧に解説していきながら学んだ。

(東北道立文化大学4年)

●自分の考えの欠点の点を求められるものが、すごくいいところだと思った。考え方の幅が広がったように感じた。

(宮前学院女子大学3年)

※1と2で4人1組の授業形態による1組4人組の構成。授業で決まった人数に達しない場合は1学年の学生を募集

学生向け説明会の日時・場所・時間
 詳細はWEBサイトでお知らせします

WEBサイト: <http://miyagi-coc.jp/>

【問合せ事務局】地域連携推進機構

〒980-8511 仙台市青葉区大森1-5-1 (東京大学仙台)

TEL:022-264-6328 / FAX 022-10-1700

Email: miyagi@miyagi-coc.jp

※ 必ずしもCOCCへで参加

夏・秋の教育

平成27年度 文部科学省「次世代の子どもたちに伝わる職業教育」実施方針（注）に基づき、職業教育推進による地域貢献を推進

CLIS ROAD

この夏、 自分をアップデート。

COC+
単位互換
科目

参加者
募集

3日間
2単位取得可能

仙台的まちを舞台に課題設定や課題解決を学ぶ3科目

クリスロード商店街をフィールドに地域の現象を捉え、その問題を設定する「地域の課題1」、企業の課題を見出し、解決案を提案する「地域の課題2」、企業の課題解決プロジェクトを実施して新たな知を生み出す「地域の課題3」は、東学院の12の大学・短大・専攻、仙台市、地域企業等が協力して実施する単位互換科目です。1日での参加は可能ですが、2日・3日も参加はできます。フィールドワークやグループ学習に取り組んでみませんか？

地域の課題1

2単位

2019.8.20・22 9:00-18:00

フィールド # クリスロード

西 まちの魅力を探る／まちの未来像を描く／課題を見出す／フィールドはクリスロード商店街
※ 東北学院大学大槻キャンパス（仙台市東区大槻1-1）

仙台市東区大槻1-1のクリスロード商店街

8.20 ①フィールドワーク

- ・フィールドワーク
- ・フィールドワークの振り返り
- ・フィールドワークの振り返り

- ・フィールドワークの振り返り
- ・フィールドワークの振り返り
- ・フィールドワークの振り返り

8.21 ②フィールドワーク

- ・フィールドワーク
- ・フィールドワークの振り返り
- ・フィールドワークの振り返り

- ・フィールドワークの振り返り
- ・フィールドワークの振り返り
- ・フィールドワークの振り返り

8.22 ③課題解決

- ・課題解決
- ・課題解決の振り返り
- ・課題解決の振り返り

- ・課題解決の振り返り
- ・課題解決の振り返り
- ・課題解決の振り返り

地域の課題2

2単位

2019.8.27・29 9:00-18:00

西 企業経営者インタビュー／企業内職業体験／企業の課題を捉える、課題解決プロジェクト設計
※ 東北学院大学大槻キャンパス（仙台市東区大槻1-1）

地域課題調査

4単位

夏季休業期間中の約2週間「課題1」～「課題3」を実施し、課題解決プロジェクトの策定／実施経験、新たな知を生み出す
※ 東北学院大学大槻キャンパス、調査実施企業

申し込み

2019年4月中旬から2019年7月中旬まで申し込み受付を行います。申し込み詳細は各大学のホームページをご覧ください。

参加費

東北学院大学・短大・高等の専攻・学部・学部指定にお申し込みください

お問い合わせ

各参加校の担当教員に各大学・短大・高等の専攻・学部・学部指定にお申し込みください

協賛校

各参加校の担当教員に各大学・短大・高等の専攻・学部・学部指定にお申し込みください

学ぶこと・参加学の声は

募集をマシ

募集をマシ

募集をマシ

3科目でこれだけ学べる!

地域の課題Ⅰ

通う学校、通う学級、通う学年のコミュニティ・デザイン能力が上がる

プレゼンテーションの機会が定数ある能力が上がる

課題を自らいじり手法を習得する力がつく
課題設定能力が上がる

地域の課題Ⅱ

傾聴能力に本気のインプットをすることで
知りたことを聞き出す力が上がる

傾聴者の立場で
何を考えるか
価値判断力が上がる

課題解決の手法を
体験的に学ぶ力
課題解決能力が
身につき

地域課題演習

成果を出すことを
目指す力
人を巻き込み協働する
力に身につく

ひとつのプロフェクトを
こなす力
最後までやりきる力が
身につく

困難課題を続ける力
信頼をくつりだす力が
身につく

知識や力をつけるには3科目を順番に関連することが望ましいですが、1科目のみでの受講も可能です

大学や年齢、専攻が異なる
人と関わることで新しい発見
が、蓄った価値が社会を
変えてきた (2年)

まちづくりに関るあらゆるお話を
集めてここに集め、フィールドワークで
実証的に学ぶことのできる (2年)

自分が成長できる場所
だと感じると社会参加の仕
で変えていけた (2年)

参加学生の声

昨年度は11大学・短大・高専から
85名が受講!

夏假期間でスケーターに
乗る、数回からのフィード
バックがあるため、力になる
学びである (3年)

初めは単なる取組目的のため、
やりがいや楽しさや学びが湧い
たというよりも楽しかったとい
ふ、やりがいも楽しさもない (2年)

学芸部はアイデアあふれるので楽し
いが、授業が終えたときは、自分たちが
経験したようにフィードバックで伝える
ことができるようになった (3年)

特設ウェブサイト

シラバスや昨年度の様子など詳しい情報は
特設ウェブサイトに掲載しています。

<http://miyai-coc.jp/topic/4536>

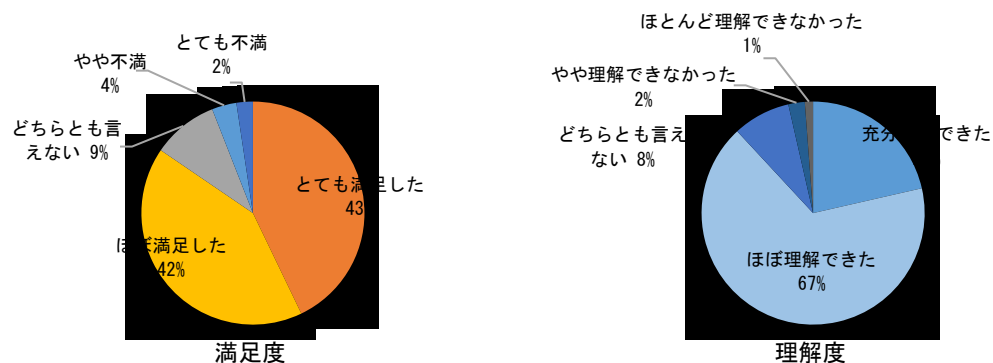
★学生向け説明会

希望に応じて説明会開催します。
希望される方は、問合せ先までご連絡ください。

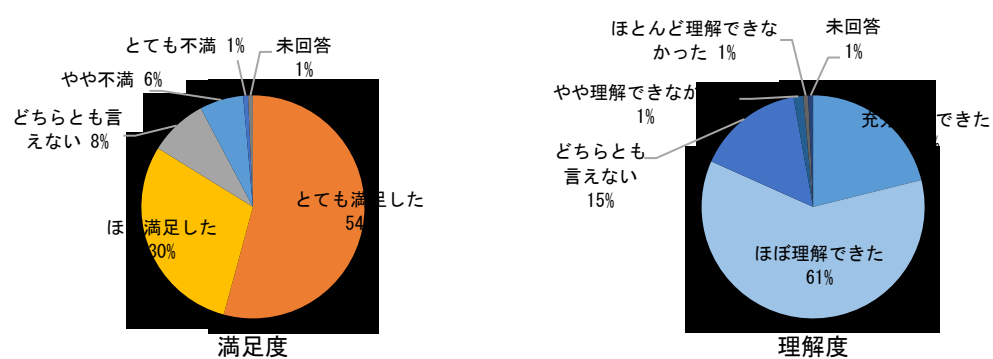
主催 問合せ先 地域協働教育推進機構 | 〒100-8311 東京都港区永田1-3-1 東京大学大町校舎5階505号室

【単位互換コア科目の意識調査の一部】

2018 年度 「地域の課題Ⅰ」 満足度及び理解度 N=84



2019 年度 「地域の課題Ⅰ」「地域の課題Ⅱ」 満足度及び理解度 N=142



（２）相互連携科目の履修勧奨に向けた取り組み

各 COC+参加校から提供された相互連携科目を取りまとめ、相互連携科目の要点と学修のポイントをまとめ、本事業の Web サイトにて履修を勧めた。各 COC+参加校の既存科目であり、授業期間中の開講科目であったこともあり、いずれの年も単位互換としての履修者はいなかった。

【2019 年度相互連携科目】

科目名	開講時期	提供校	他大学履修者数 (単位互換)	自大学履修者数 (参考)
復興ボランティア学	前期	石巻専修大学	0名	162 名
いしのまき学	前期	石巻専修大学	0名	371 名
生活美術特別講義Ⅴ	前期集中	東北生活文化大学	0名	15 名
栄養疫学	前期	仙台白百合女子大学	0名	8名
地方自治論	後期前半	尚絅学院大学	0名	63 名
地域スポーツ戦略論	後期	仙台大学	0名	115 名
地域文化論	後期	東北生活文化大学	0名	3名
東北の伝統と文化	後期	仙台白百合女子大学	0名	35 名

■教育プログラムの評価と改善

本事業では、単位互換コア科目や各種プログラムの共有化、その中でのディープ・アクティブラーニングの実践を通して地域で活躍しうる人材の育成を進める一方で、各大学の学生個人の成績評価とは別に、地域高度人材指標開発・評価部会（部会長：宮城教育大学教育学部 吉田剛 教授）を中心に、COC+参加校全体での地域高度人材の共通指標を作成し、運用・評価を行った。

（１）地域高度人材指標の開発

事業協働機関の共通指標として「持続的挑戦」「ネットワーク分析」「ネットワーク構築」の三つの能力を柱とした地域高度人材指標を作成し、この指標による評価を行う科目毎に下位指標を設定し、運用する方法を開発した。

地域高度人材指標の開発にあたり、本事業における指標開発の取り組み方針の確認と、指標開発の進め方について 2015 年度の部会発足時から 2018 年度まで随時検討を重ねた。

2015 年度当初から、指標づくりの基礎となる本事業の方針と地域高度人材に関する用語の定義の確認や、指標開発と評価に関する前提条件の整理を行った。前提条件の整理では、人材指標の策定・評価にかかる他地域の先行事例の調査、求める人材像や指標項目の抽出を目的に、県内企業を対象としたヒアリング調査、単位互換コア科目開発過程における指標の調査、本事業の参加高等教育機関のディプロマ・ポリシーのとりまとめ、地域高度人材像のイメージ共有、ループリック案の作成、データベース化の検討、到達度レベルのイメージ共有等を行った。

これらを踏まえて、2016 年度には他地域の取り組みや社会人基礎力、学士力等の指標を参考に、本事業を中心とした事業協働機関における地域高度人材指標のプロトタイプを作成し、それを用いた評価の試行を開始した。評価の試行は、本事業の単位互換コア科目に加えて、教育プログラム開発部会、単位互換部会、FD/SD 部会が実施した各大学等正課科目のうちディープ・アクティブラーニングを目指した講義の試行プログラムとした科目で実施した。併せて、東北学院大学教養学部人間科学科「教育工学実習」や宮城学院女子大学学芸学部心理行動科学科「心理行動セミナーⅢ」等の本部会員の担当科目について、下位指標をどのように設定するかの検討を行った。

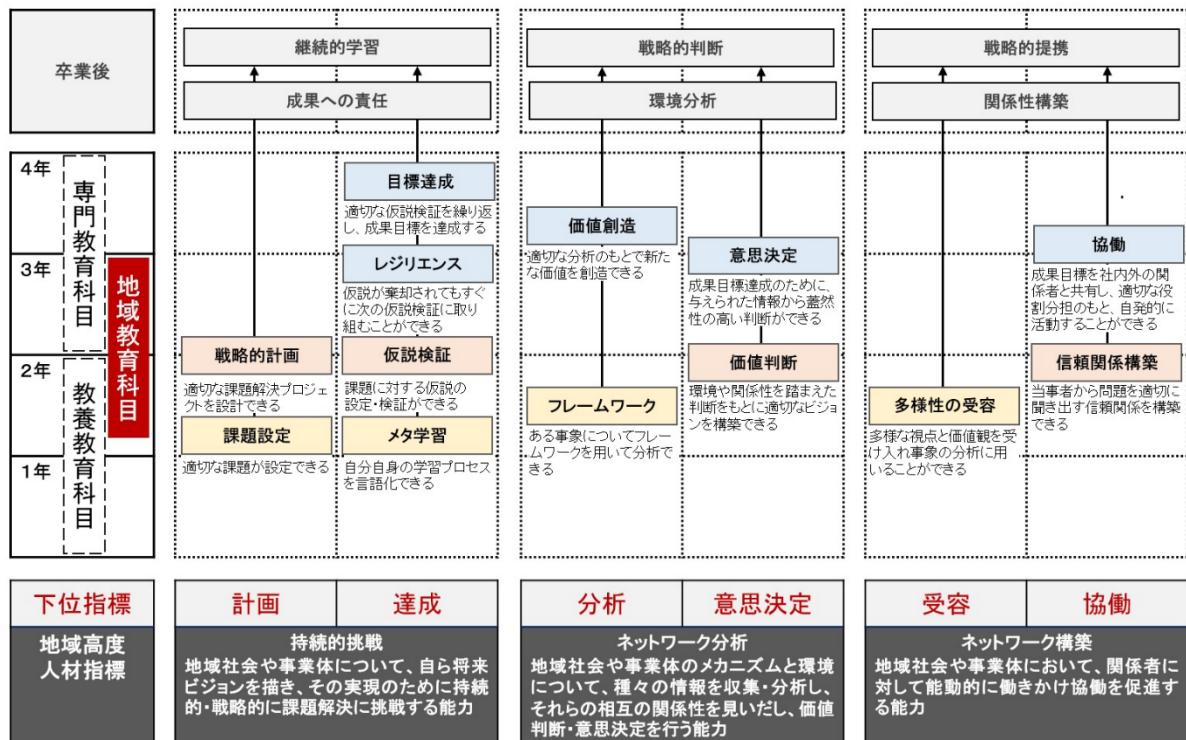
その結果、評価指標の下位指標を科目の到達目標や講義テーマ、学部学科の教育目標等に合わせて検討・抽出することで汎用性が生まれ、各事業協働機関内に取り入れやすい形になること、指標を用いた評価方法は各科目担当教員が随時検討することが望ましいことを確認し、2017 年度に地域高度人材指標を開発した。

2018 年度以降は地域高度人材指標の実践と検証に重点を置き、指標活用後の授業内容の変更や評価方法等の改善に加えて、大学卒業後の社会人の評価や企業での指標活用等、主に指標の運用について議論した。

【地域高度人材指標】

地域高度人材の理念		
複雑な文脈が織り込まれた地域において、産業の革新と自治の担い手として、地域の文脈を理解しそれらに適応しつつ、関係者に能動的に働きかけ、新たな価値を生み出す人材		
地域高度人材指標		
持続的挑戦	ネットワーク分析	ネットワーク構築
地域社会や事業体について、自ら将来ビジョンを描き、その実現のために持続的・戦略的に課題解決に挑戦する能力	地域社会や事業体のメカニズムと環境について、種々の情報を収集・分析し、それらの相互の関係性を見だし、価値判断・意思決定を行う能力	地域社会や事業体において、関係者に対して能動的に働きかけ協働を促進する能力

【地域高度人材指標の下位指標の設定例】



※科目と下位指標の対応

地域課題演習

地域の課題Ⅱ

地域の課題Ⅰ

（２）指標による評価と改善

2016 年度より地域高度人材指標のプロトタイプを用いて、単位互換コア科目「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」「地域の課題Ⅱ（地域企業版）」の受講生を対象とした評価の試行を開始した。2017 年度以降は順次、本部会員の教員が担当する科目や科目群と、各大学等正課科目のうちディープ・アクティブラーニングを目指した講義の試行プログラムとした科目において、プロトタイプを含めた地域高度人材指標と下位指標を用いた評価を実施した。

この中で単位互換コア科目では、ミニカリキュラムとして各科目の到達目標に合わせた下位指標と評価方法を検討・運用した。この評価の結果、2018 年度前期は講義内容の絞り込みや順序の変更などの情報の整理、フレームワークを用いた思考機会を増やすこと、後期は調査テーマの絞り込み、履修生の思考や共同活動を促進するような評価を組み込むこと等の改善を行うこととした。

単位互換コア科目以外の科目で本指標による評価を実施した教員は、『『評価』という語に対して学生は『良い点を取る』ことと捉えていた』ために、「この人材育成指標を用いた評価の主旨やねらいを丁寧に説明する必要があった」「学生の理解度に合わせて授業計画の進行を修正したため、指標による学習効果の測定に取り組む時間を多く作れなかった」といった点を反省点として挙げ、次年度への改善を予定している。

評価実施科目一覧（指標プロトタイプを用いた評価も含む）

東北学院大学	「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」※夏期集中の単位互換科目を含む
東北学院大学	「地域の課題Ⅱ（地域企業版）」※夏期集中の単位互換科目を含む
東北学院大学	「地域課題演習（地域企業版）」
宮城学院女子大学	「心理行動セミナーⅡ」
宮城学院女子大学	「心理行動セミナーⅢ」
尚絅学院大学	「地方自治論」
東北生活文化大学	「生活美術特別講義Ⅵ」
仙台大学	「全学教養演習」
仙台白百合女子大学	「地域保健福祉論」
仙台白百合女子大学	「公衆衛生学」
仙台白百合女子大学	「食品学実験Ⅱ」

○地域高度人材指標と下位指標の活用

2017 年度より東北学院大学の必修科目である「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」及び単位互換科目「地域の課題Ⅰ」において、講義の第1回と最終回である第15回とで、履修生の学習に関する自己認識の現状調査を目的としたアセスメントを行った。このアセスメントは、地域高度人材指標及び地域教育科目にて設定した下位指標を基に質問項目を決定し、毎年同じ項目、同じ方法で調査した。

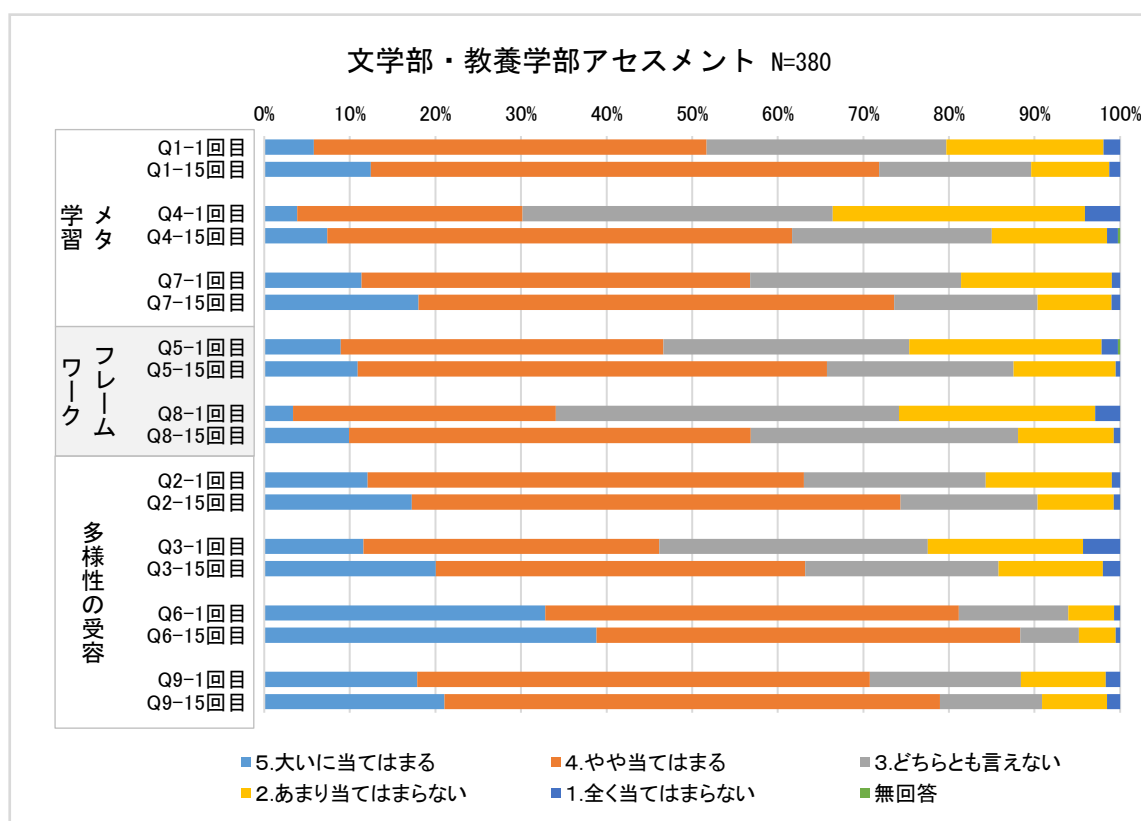
【地域高度人材指標とアセスメント項目】

評価指標	下位指標	アセスメント項目
持続的挑戦	メタ学習	Q1 自分の専門分野についてこれまで学んだことを説明することができる Q7 自分がどういう学び方をしているかを他者に説明することができる
ネットワーク分析	フレームワーク	Q4 自分の専門分野の視点から周囲の出来事を説明することができる Q5 自分の専門分野の中心にある考え方を説明することができる Q8 限られた情報を組み合わせて蓋然性の高い判断をすることができる
ネットワーク構築	多様性の受容	Q2 インターネットだけではなく、書籍や雑誌、新聞からも適切な情報を集めることができる Q3 周囲の人に格好つけずに自分を見せることができる Q6 自分と違う価値観を持つ人と意見のやり取りができる Q9 他者の立場になりきって周囲の出来事を見ることができる

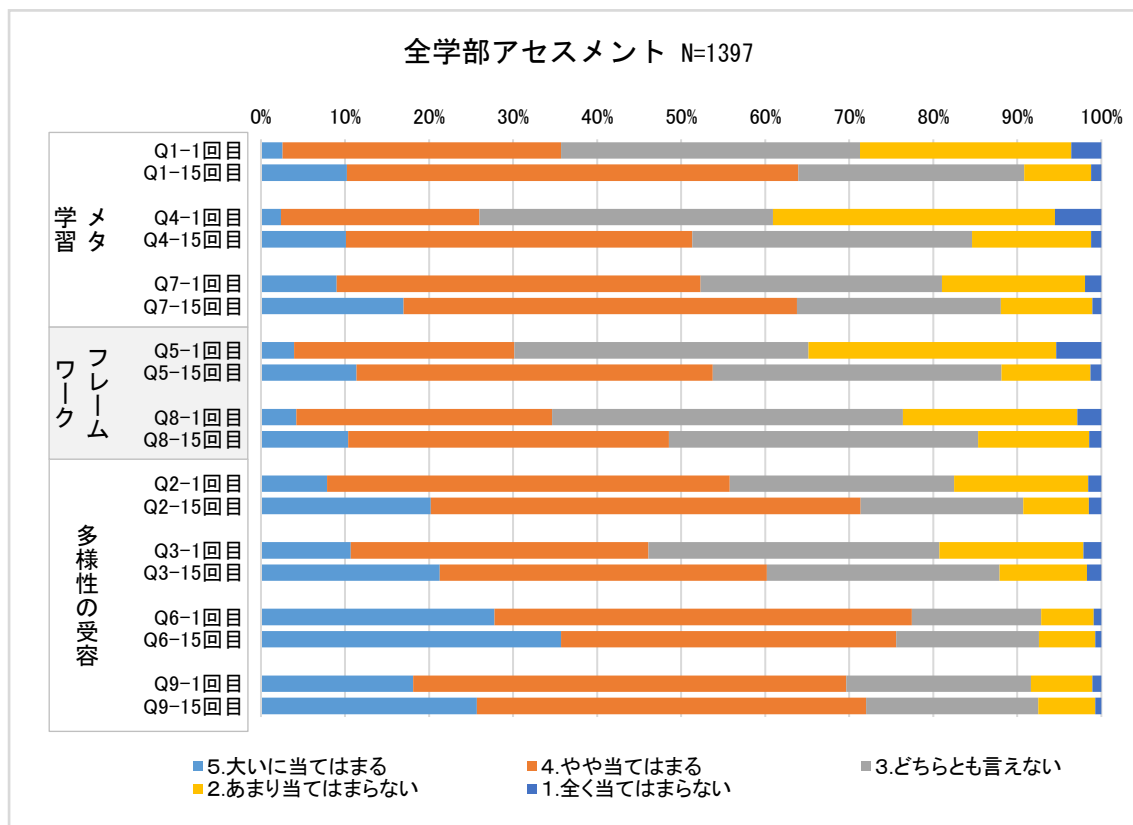
選択肢 ①全く当てはまらない ②あまり当てはまらない ③どちらとも言えない
④やや当てはまる ⑤大いに当てはまる

※2017 年度、2018 年度は Q4 を下位指標「メタ学習」として扱ったが、部会にて審議し、2019 年度より「フレームワーク」として扱うこととした。

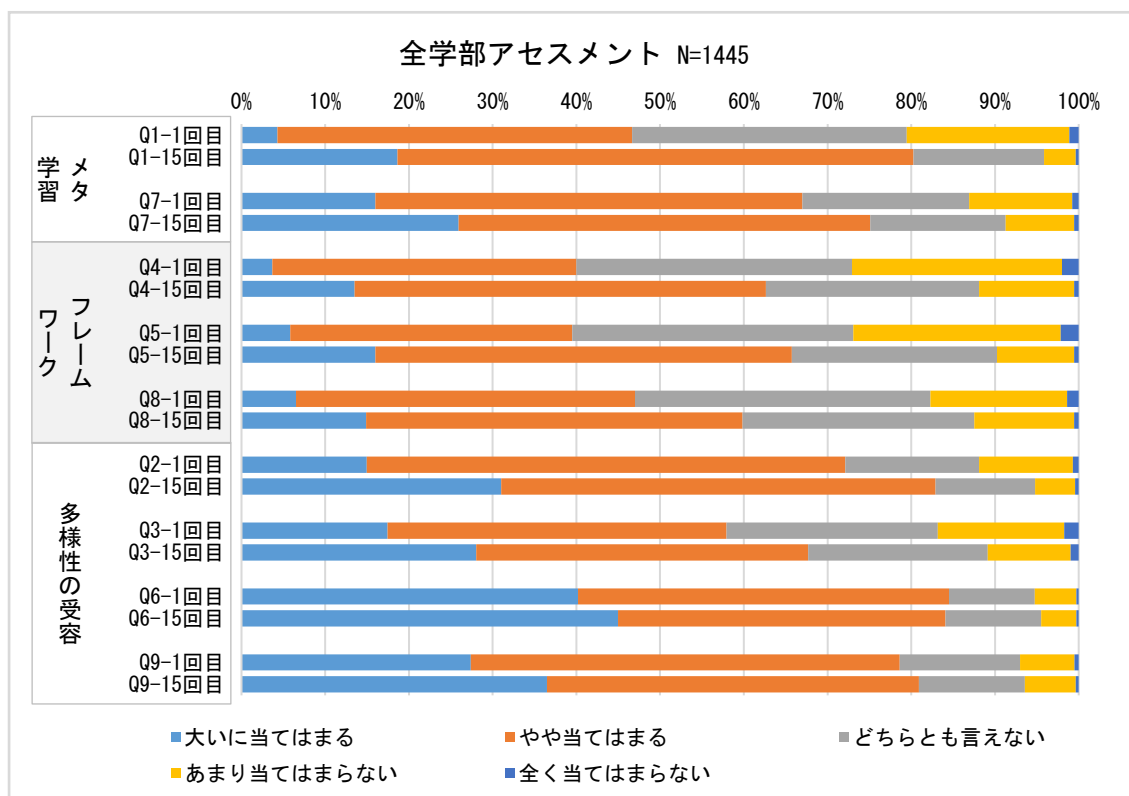
2017 年度前期 東北学院大学「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」



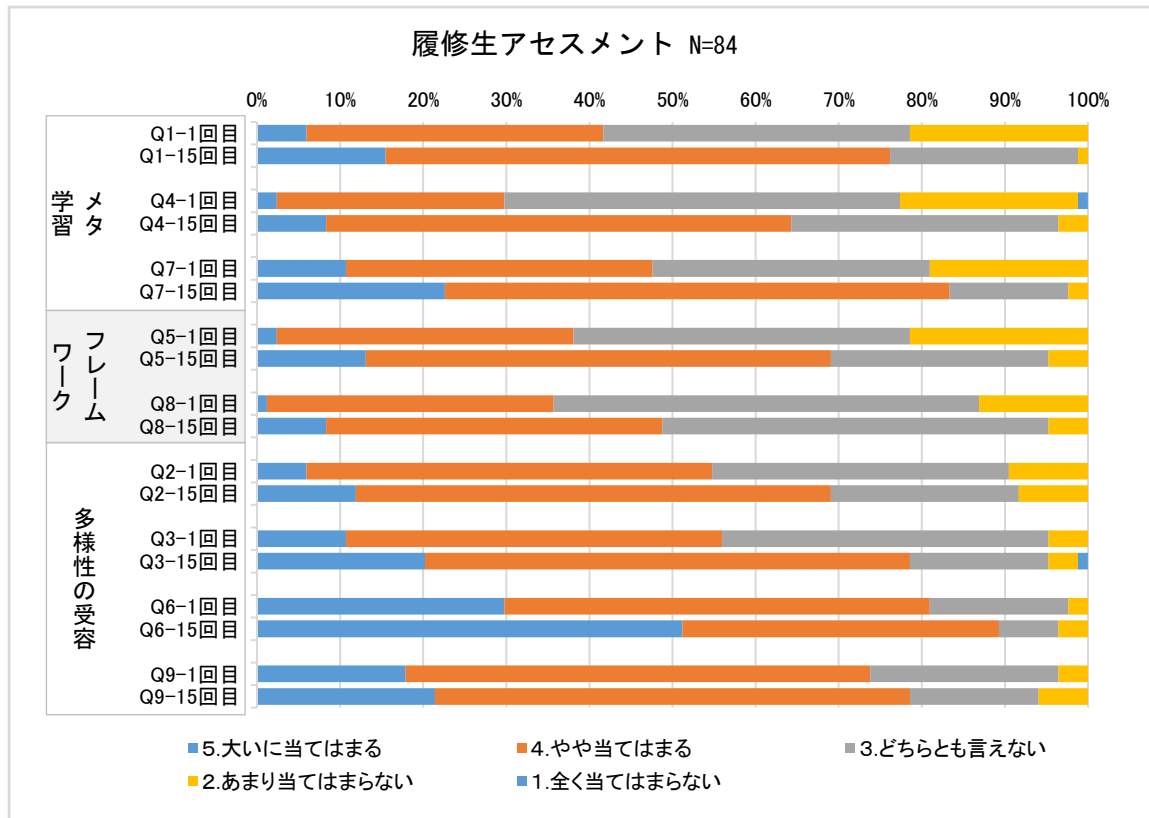
2018 年度前期 東北学院大学「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」



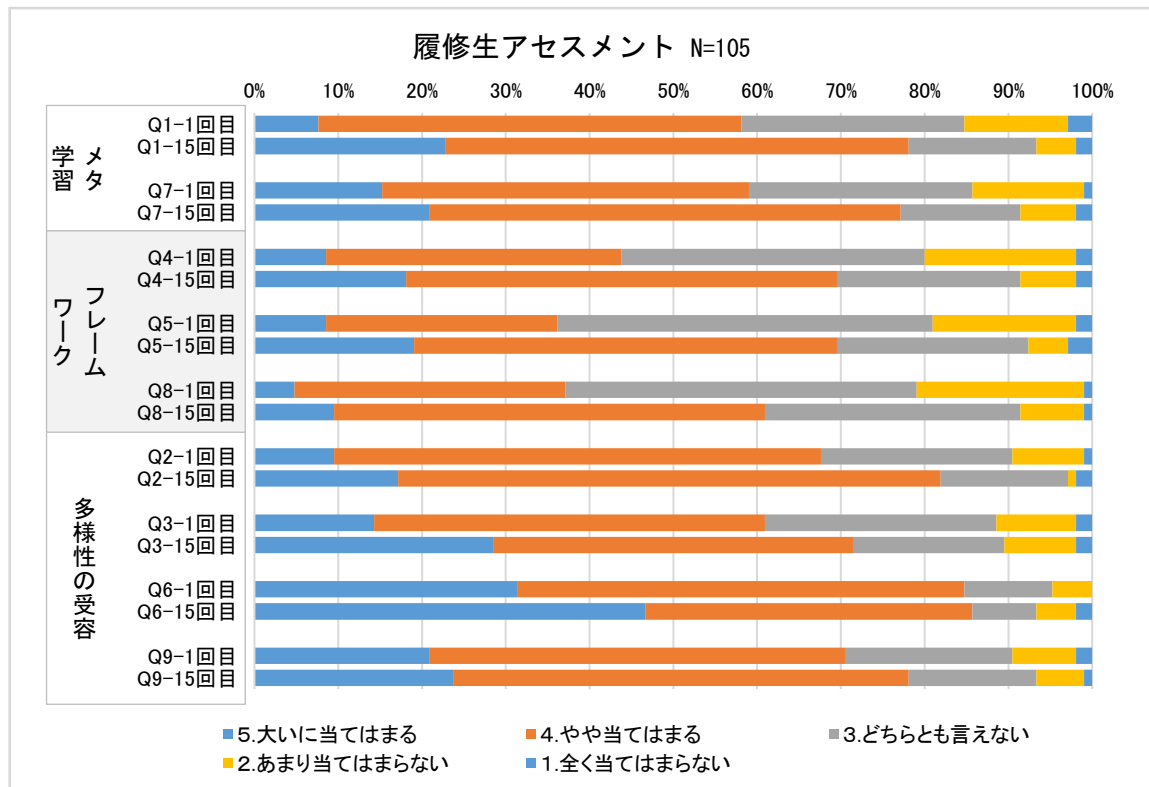
2019 年度前期 東北学院大学「地域の課題Ⅰ（地域企業版）」



2018 年度前期集中 単位互換科目「地域の課題Ⅰ」



2019 年度前期集中 単位互換科目「地域の課題Ⅰ」



（３）指標評価への意見の集約

地域高度人材指標を用いた人材育成については、教育プログラム開発やFD/SDの研修プログラムの開発、高大連携プログラムの開発等に活用するとともに、今後の指標活用の参考とするために教育プログラムにおいて指標による評価を受けた学生の率直な意見と、大学と卒業後の企業・自治体等での人材育成の接続を考える機会をつくり、それぞれの意見を集約した。

○学生からの意見集約

地域高度人材指標を用いた人材育成について、被評価者である学生と意見交換を行い、評価による考え方・行動の変化や評価されることの意味・価値に関する考えを確認した。なお、学生は単位互換コア科目の３科目のうち２科目以上を履修した学生群から任意で抽出し、学生に参加を依頼した。学生らは評価を受けたことによって、社会とのつながりや流れを意識するような思考の広がりがあったこと、自己と他者の意見の比較と多様性の理解につながったこと、もっと知りたいというような意欲や主体性、向上心が生まれたことなどの変化を挙げた。また、評価されることにより中だるみせずに行ける、自信につながるなどの評価の意義に気づきがあり、学習の判断基準となることやメタ学習の重要性などに価値を見いだしていた。

2019年度 全４回 東北学院大学３年４名、２年６名 計１０名

第１回 １１月 ７日（木）２校時 ２名（工学部３年１名、２年１名）

第２回 １１月 １１日（月）４校時 ２名（文学部・教養学部２年 各１名）

第３回 １１月 １２日（火）５校時 ３名（経済学部・経営学部・教養学部２年 各１名）

第４回 １１月 １３日（水）４校時 ３名（文学部３年２名、経営学部３年１名）

○企業・自治体からの意見集約

大学と企業との人材育成指標の接続という観点から、産業界の意見を受け取り、当該指標をより実質的なものに更新することを目的として企業関係者を対象とした意見交換を行った。

企業からは、知識や強い熱意を持って組織全体やステークホルダー等を巻き込み動かす力や引っ張る力といったリーダーシップと、粘り強さや最後までやり抜くといった持続力等が必要であるとの意見があった。また、指標の活用イメージとしては採用時に受容や協働を、人材育成の場面では目標に向かって動けるか、分析・意思決定・達成等の問題解決ができること、現場で実践が出来ること等が挙げられた。指標をより有効に活用するためには、卒業後の学生（社会人）をモニタリングして、入社後の情報を指標の改善のためにフィードバックすることなどのアイディアが出された。

■高大接続

高大連携部会（部会長：宮城教育大学 2015 年度 中井滋 連携担当理事・副学長、2016～2017 年度 熊野充利 連携担当理事・副学長、2018～2019 年度 岡正明 連携担当理事・副学長）を中心に、中等教育機関と高等教育機関との接続と連携を念頭に、宮城県等が行う「キャリア教育・志教育の推進に関する覚書」に基づくプログラムの実施と、県内に所在する中学校・高等学校の教員向けの支援を行った。

（１）地域型キャリア教育実践モデルの開発と普及

地域型キャリア教育実践モデルとして、2016 年度に「地域の身近な課題をテーマに課題解決思考（読解、表現、仮説検証）を身につける」授業を開発した。続く 2017 年度にこのモデル授業を東北学院中学校・高等学校にて試行し、県内高等学校への普及を目指した検証を行った。これらの検証の結果を受けて 2018 年度は「地域社会の未来を描き、自分の生き方と学び方を関連付けて考える」をテーマに、多様な高等学校のニーズに対応し、総合的な学習の時間の数校時等の短時間でも取り入れやすくするため、ユニット単位の教育プログラムを開発した。宮城県教育委員会を通じて県内高等学校に対してプログラム導入を呼びかけ、2 校が応じ、2019 年度末までに東北学院中学校・高等学校を含めて計 3 校にてモデル授業を行った。

モデル授業を導入した高等学校の教諭からは「今年度から始まった探究的な活動について、正直なところ勉強不足である」との意見があり、「高校の教員では教えきれない研究を行う上での諸知識」「学術的な妥当性、研究テーマの精選、研究メソッドの流れ」といった事柄について大学との連携を求める声を得られた。

この点を踏まえ、地域型キャリア教育実践モデルに追加するかたちで、高等学校における地域連携型の探究学習を支援する「研究の手法」、特に課題の設定と調査の手法に絞り込んだプログラムを組み込んだ。

2017 年度	東北学院中学校・高等学校	1 年生（8 校時）
2018 年度	東北学院中学校・高等学校	2 年生（36 校時）
2019 年度	宮城県古川高等学校	2 年生（2 校時）
	宮城県築館高等学校	1 年生（2 校時）、2 年生（1 校時）

【2019 年度地域型キャリア教育実践モデルの概要】

ユニット1 マクロ環境の理解(1)「日本の経済」(4～6時間程度)

日本経済の基本的な仕組みと動きを理解し、自分自身の学びとの関係性について考える

ユニット2 マクロ環境の理解(2)「地域の経済」(4～6時間程度)

宮城県の現状理解、宮城の経済の今後と自分の学び方について考える

ユニット3 マクロ環境の理解(3)「世界の経済」(4～6時間程度)

世界経済と自分との関係性の理解を深める

ユニット4 ケース学習「地域企業の取組」(4～8時間程度)

地域企業や地域の人たちの取組事例を知る、地域企業の将来像を描く

ユニット5 デスクリサーチ(5～7時間程度)

自分が探究したいテーマについて文献や統計情報を収集し活用する方法を学ぶ

ユニット6 フィールドワーク(6～8時間程度)

自分が探究したいテーマについて現地調査を通じて資料や情報を収集し活用する方法を学ぶ

ユニット7 探究手法(4～12 時間程度)

探究のプロセスを理解し、適切な課題と仮説を設定する

ユニット8 課題解決思考(15～18 時間程度)

地域の現状調査の結果をもとに地域の発展可能性を抽出する

・プログラムユニット詳細 URL <https://miyagi-coc.jp/cooperation-with-highschool/>

(2) 高等専門学校 1～3 年生含む県内高校生の単位互換コア科目の受講

高大接続支援に重点を置いた教育モデルとして、県内高校生が高等教育機関の学びを体験し、自分自身のキャリア形成を考える一助とすることを目的に、単位互換コア科目「地域の課題Ⅰ」への参加を呼び掛けた。2018 年度は事業協働機関である仙台高等専門学校の 1・2・3 年の計 24 名が、2019 年度は仙台高等専門学校の 10 名に加えて、宮城県教育委員会や COC+大学を通じて県内高等学校に対して参加を募ったところ 3 校(常盤木学園高等学校、東北学院中学校・高等学校、仙台市立仙台高等学校) 10 名の申込があり(うち 1 名は体調不良のため欠席)、2 年間で 43 名の県内高校生相当の生徒が参加した。これまでの高大接続は大学と高等学校の個別の結びつきでの開催が多かったが、本事業では教育委員会と連携することにより県内高等学校の生徒と、多様な大学・短期大学・高等専門学校の学生とが共に学ぶ機会を作ることができた。

2018 年度 24 名 内訳 | 仙台高等専門学校 1 年生 1 名、2 年生 20 名、3 年生 3 名

※うち 22 名がこの科目の学習内容について理解できたと回答

1 名がどちらとも言えない、1 名無回答

※うち 20 名がこの科目の学習内容に満足したと回答

2 名がどちらとも言えない、1 名やや不満、1 名無回答

2019 年度 19 名 内訳 | 仙台高等専門学校 2 年生 3 名、3 年生 7 名

常盤木学園高等学校 2 年生 5 名

東北学院中学校・高等学校 2 年生 3 名

仙台市立仙台高等学校 3 年生 1 名

※うち 18 名がこの科目の学習内容について理解できたと回答

1 名がどちらとも言えないと回答

※うち 17 名がこの科目の学習内容に満足したと回答

2 名がどちらとも言えないと回答

（３）高等学校の教職員向け支援プログラムの実施

本事業で企画したFD研修について、高等学校の教職員対象の支援として参加者を募ったところ、のべ6名の高等学校教諭が参加した。中等教育機関と高等教育機関の教職員がディスカッションしながら学び合う機会を作ることができた。

2019年度 6名

内訳	事前研修「地域と連携したアクティブラーニング型授業」の開発	1名
	授業参加「地域と連携したアクティブラーニング型授業」の運用	2名
	事後研修「地域と連携したアクティブラーニング型授業」の評価	3名

※参加者6名全員が研修内容について理解できたと回答

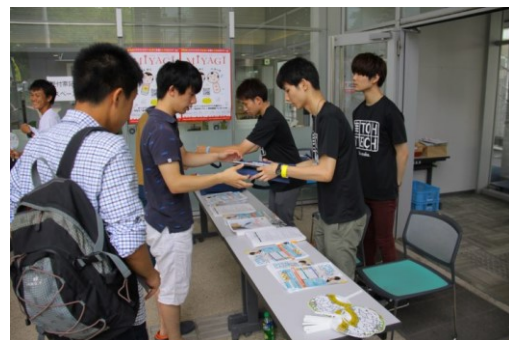
※うち5名が研修内容を自身の業務に取り入れたい・実践したいと回答、1名が無回答

（４）オープンキャンパス企画の実施

本事業に対する高校生及び保護者の認知度の向上を目的に、オープンキャンパスにおいて本事業に興味を持たせるようなポスター及びスライドを掲示し、そこから高校生向け特設Webサイトに誘導することで事業紹介を行った。なお、ポスターは東北生活文化大学家政学部生活美術学科の協力により作成した。この取り組みは2017年度から開始し、すべての高等教育機関で実施した。東北学院大学ではポスターの他、事業紹介パネルを掲示して説明を行い、高校生や保護者から興味を示す反応や良い取り組みとの評価があったことから、事業内容について一定の認知向上があったと言える。



▲ポスターデザイン



▲オープンキャンパスの様子

4. FD/SD の取り組み

本事業では、地域経済に新たな活力を与える企業の担い手たる人材（地域高度人材）の育成及び地域企業の魅力向上を支援し、宮城県の地方創生に貢献することを目指している。事業の推進のため高等教育機関においては、自ら仮説を設定し試行錯誤を繰り返しながら、より適切な解を導き出すことを地域のビジネスの現場で実践できる人材の育成が必要となる。一方、本事業が目指す人材育成を実現するには、地域企業と学生の成長の両方を実現するプログラムを設計・実施できる教職員の育成・配置が重要であった。

この目標達成に向けて、本事業ではFD/SD 部会（部会長：宮城学院女子大学学芸学部 大橋智樹 教授）を設置し、事業協働機関内で本事業が実施している教育プログラムの設計・実施内容の共有とノウハウ移転に取り組んできた。具体的には、事業期間初期は本事業の周知と理解を促すことを目的とした各高等教育機関内での FD/SD 研修、次に本事業の教育プログラムの核となるディープ・アクティブラーニングの手法を各大学等の既存科目に導入することを目指したハンズオン型の研修、さらに大学等が合同で開催する地域協働教育コーディネーター養成研修を企画・実施した。開催回数及び参加人数は、のべ 72 回、1,700 名以上となった。

■事業理解促進のための FD/SD 研修会

COC+大学及び COC+参加大学等教職員が本事業に対する理解を深めることができるよう、毎年度、事業概要や進捗の報告を含めた FD/SD 研修会を各事業協働機関にて実施し、参加者数は約 1,150 名となった。

【事業周知と理解促進のための FD/SD】

No.	高等教育機関名称	開催日時	参加人数
1	宮城学院女子大学	2016 年 7 月 6 日（水）16 時 30 分	約 45 名
2	石巻専修大学	2016 年 7 月 14 日（木）16 時 30 分	33 名
3	仙台大学	2016 年 7 月 26 日（火）14 時 30 分	約 20 名
4	東北生活文化大学・短期大学部	2016 年 8 月 5 日（金）16 時 20 分	34 名
5	東北学院大学	2016 年 8 月 9 日（火）15 時	約 300 名
6	尚絅学院大学	2016 年 9 月 20 日（火）13 時	約 60 名
7	仙台白百合女子大学	2016 年 11 月 16 日（水）18 時 15 分	約 56 名
8	聖和学園短期大学	2017 年 2 月 7 日（火）16 時 30 分	26 名
9	東北生活文化大学・短期大学部	2017 年 7 月 14 日（金）16 時 20 分	65 名
10	石巻専修大学	2017 年 7 月 20 日（木）15 時 30 分	30 名
11	宮城学院女子大学	2017 年 8 月 2 日（水）14 時 40 分	69 名
12	仙台白百合女子大学	2017 年 9 月 21 日（火）14 時 50 分	89 名

No.	高等教育機関名称	開催日時	参加人数
13	宮城教育大学	2017 年 10 月 11 日 (水) 13 時 40 分	38 名
14	仙台高等専門学校	2018 年 1 月 10 日 (水) 16 時 30 分	10 名
15	仙台大学	2018 年 3 月 5 日 (月) 10 時	8 名
16	東北学院大学	2018 年 3 月 16 日 (金) 15 時	237 名
計 16 研修 参加者合計			約 1,150 名

■地域協働教育（COC+）コーディネーター養成研修

地域協働教育を実現するコーディネーターは、大学と地域企業の連携を実現するため、学生の成長に寄与する学習支援能力と、地域企業の成長発展に寄与する経営支援能力の双方が必要であり、その能力の育成のために研修を実施した。

2017 年度には、2016 年度の研修参加者の意見を踏まえ、地域協働教育コーディネーター養成研修を体系的に整理した。大きくは地域協働教育コーディネーターの役割に対する理解を促すことを中心とした入門編と、地域協働教育コーディネーターの能力として、大学と企業が連携する基盤となる計画を立て、学習支援能力と経営支援能力を育成することを目指した実践編に分けて開催した。また 2018 年度からは、単位互換コア科目の単位互換開始に合わせて研修内容を再編し、アンケートにて高評価だった教職員同士の意見共有や授業改善方法の説明等に加えて、要望の多かった職員、特に専門職員を対象とした研修、また学生の動機付け、業務及び授業等の具体例を組み込んだ研修とした。

【地域協働教育コーディネーター養成のための研修】

No.	開催日時	会場	テーマ	参加人数
1	2017 年 2 月 28 日 (火) 10:00-12:00	聖和学園 短期大学	地域企業と連携した教育プログラムの設計	事業協働機関 教職員 33 名
2	2017 年 7 月 28 日 (金) 14:40-17:10	宮城学院 女子大学	PBL・企業連携プログラムの開発	事業協働機関 教職員 35 名
3	2017 年 8 月 8 日 (火) 10:00-12:00	尚絅学院 大学	学生の主体的な学びを促進するためには－COC+事業の活用を例として－	尚絅学院大学 教員 55 名
4	2017 年 9 月 6 日 (水)・ 7 日 (木) 終日	東北学院 大学	地域企業を題材とした課題解決の手法	事業協働機関 教職員 21 名
5	2017 年度を中心に 随時(のべ 38 回)	各機関	各正課科目にあわせてテーマを設定	科目担当教員 11 名 参観者 93 名
6	2017 年 11 月 28 日 (火) 15:00-16:30	聖和学園 短期大学	学生の主体的な学びのための カリキュラム設計と授業運営 - COC+を例にして-	聖和学園短期大学 教職員 30 名

No.	開催日時	会場	テーマ	参加人数
7	2018 年6月1日(金) 15:00-15:50	東北工業 大学	ディープ・アクティブラーニング のすすめ	東北工業大学 教職員 66 名
8	2018 年7月 13 日(金) 15:30-17:00	東北学院 大学	教学マネジメントと職員の役割	事業協働機関 教職員 20 名
9	2018 年7月 24 日(火) 15:30-17:00	東北学院 大学	大学と地域・企業をつなぐ 連携の意味と可能性	事業協働機関 教職員 14 名
10	2018 年7月 31 日(火) 15:30-17:00	東北工業 大学	地域・企業と連携した コーディネーター養成研修の 設計と運用	事業協働機関 教職員 65 名
11	2018 年8月6日(月) 15:30-17:00	東北学院 大学	「地域の課題Ⅰ」プログラムの 開発と運用①設計・運営	事業協働機関 教職員 6名
12	2018 年8月 20-22 日 (月-水)終日	東北学院 大学 他	「地域の課題Ⅰ」プログラムの 開発と運用②聴講	事業協働機関 教職員 14 名
13	2018 年8月 30 日(木) 15:30-17:00	東北学院 大学	「地域の課題Ⅰ」プログラムの 開発と運用③評価・ふりか えり	事業協働機関 教職員 5名
14	2019 年6月 21 日(金) 16:20-17:50	宮城学院 女子大学	教学マネジメントと職員の 役割	事業協働機関 教職員 27 名
15	2019 年7月 18 日(木) 14:40-16:10	仙台白百 合女子大 学	大学と地域・企業をつなぐ 連携の意味と可能性	事業協働機関 教職員 39 名
16	2019 年8月5日(月) 15:30-17:00	東北学院 大学	「単位互換コア科目」 プログラムの開発	事業協働機関 教職員(高校含む) 5名
17	2019 年8月 20-22 日 (火-木)終日	東北学院 大学 他	「単位互換コア科目」 プログラムの運用①	事業協働機関 教職員(高校含む) 19 名
18	2019 年8月 27-29 日 (火-木)終日	東北学院 大学	「単位互換コア科目」 プログラムの運用②	事業協働機関 教職員 2名
19	2019 年9月5日(木) 15:30-17:00	東北学院 大学	「単位互換コア科目」 プログラムの評価	事業協働機関 教職員(高校含む) 5名
計 19 研修 (のべ 56 回) 参加者合計				565 名

【地域協働教育コーディネーター養成研修チラシの一部】



▲2017 年度



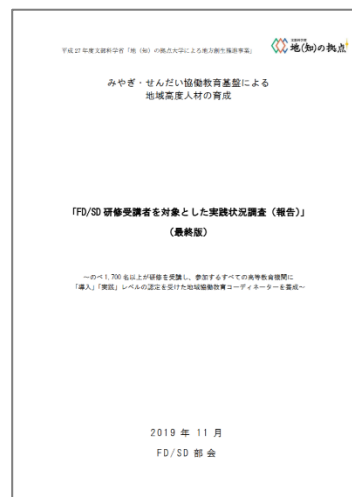
▲2018 年度

また、FD/SD 部会では、本事業の継続性を担保する観点から、研修受講者のうち一定レベルを満たした者を「地域協働教育コーディネーター」として認定することを決定した。認定基準は、「研修に参加して内容を理解した」ことを基準とした「導入」レベル及び「研修で学んだことを実践した」ことを基準とした「実践」レベルとした。

養成研修の受講者には、研修終了時に FD/SD 研修の効果検証を目的としたアンケート調査を実施し、研修終了時点での研修内容の理解度や受講者自身の実践希望について調査した。その結果、研修受講後のアンケート提出者 329 名のうち 225 名が「導入」レベルに認定され、本事業に参加するすべての高等教育機関に FD/SD 部会が認定する「導入」レベルの地域協働教育コーディネーターを養成するに至った。併行して研修内容の実践を希望した受講者が、各所属機関での講義や業務等で研修内容の活用の有無、また、活用した場合にはそれがどのような内容であったのかを把握する調査を行い、FD/SD 研修の効果測定を行うとともに報告書を取りまとめた。

- ・FD/SD 研修受講者を対象とした実践状況調査（報告）

掲載 URL <https://miyagi-coc.jp/topic/5734/>




地(知)の拠点

グループディスカッション実践講座

～グループディスカッションの基本を学び、あなたの課題を解決しよう！～

いま、多くの企業がグループディスカッション(GD)を採用選考の手段として取り入れています。

GDの実力アップのコツは「本書モードで何度も実践する！」ことです。

GDが初めての人も経験者も一緒に練習しましょう！

日時 平成29年 **3月14日**または**21日**火曜日

14時～17時 [13時45分集合]

場所 3月14日 仙台トラストタワー 5階Room2・3 仙台市青葉区一番町1-9-1

3月21日 河北新報社 別館5階ホール 仙台市青葉区五枝1-2-28
(協力：河北新報社)

対象 就職活動中の学生（新大学4年生、短大2年生、高専5年生）

定員 各回 **42名** 限定

(応募者多数により、会場を変更し定員を10名から42名に増やしました。)

**参加費
無料**

講座の特徴

- ・他大学の学生が参加するので、本番に近い緊張感が味わえます。
- ・講義終了後には他大学の学生との新たな人脈ができます。
- ・講師からフィードバックや解説を受けながら学ぶので即実践できます。

講座について

- ・1回3時間の講座の中で、30分の模範GDを2回受けられます。
- ・1回のみの参加でも、2回連続参加でもOKです。
- ・当日は本番の選考過程と同様に、スーツで参加してください。

[注] 以下大学が推薦し、開催している文部科学省指定「社会力養成」認定講座(人材育成)の一環で開催します。
 ・仙台大学工学部 国際経営学部 東北工業大学 山形県立大学 宮城県立大学 岩手県立大学 秋田県立大学 盛岡大学 新潟県立大学
 弘前大学女子大学 聖光学院短期大学 東京造形大学短期大学 日本経済大学短期大学 山梨県立大学 山梨県立高等学校
 富山県立大学 富山県立短期大学 富山県立大学短期大学 富山県立大学短期大学 富山県立大学短期大学

宮城県内の地元中小企業等が集合!!

地元企業 魅力発信イベント 2019

【企業説明会 & 企業研究会】

会場：仙台市、宮城県、地域振興教育推進棟

参加無料

宮城県の魅力を最大に

参加無料

11月6日

2019年10月6日(日)

12:00~17:30

午前受付：11:15
午時開演：12:30

11月7日

AER(アエル)5階

仙台市内中小企業活性化センター

目的の表へ

第一部 企業説明会 11:15~13:30

【対象】2020年3月卒業予定の学生及び既卒生

11:15	第一部 学生受付開始
11:45	第一部 開会式
12:00	第一部 合同企業説明会
13:30	第一部 終了

第二部 企業研究会 12:30~17:30

【対象】宮城県内の大学等に在学する低学年生

12:30	第二部 学生受付
12:50	第二部 学生内付企業研修
13:50	第二部 企業研究会
14:50	第二部 学生ふりかえり
17:00	第二部 終了

場内の「地元企業」に関する
実用型職業能力検定(COC+)とは…

文部科学省「地域」の橋渡し事業として、地元企業と職業能力検定(COC+)に連携した取り組みを、地元企業・職業能力検定本部に依頼し、仙台市内の120名程度を研修対象とする。仙台市、宮城県の地元企業と、職業能力検定の連携により、地元企業と人材育成が結び付き、地元企業の魅力を向上させ、地域経済の活性化と、貢献することが可能になるとする。

WISEとは…

WISEは仙台市内に数多くある、学生が企業で働く機会を得るための企業研修材料。その中でWISE(ワイズ)というウェブサイトをつくりあげ、その中でWISE(ワイズ)というウェブサイトを、仙台市、宮城県の地元企業と、職業能力検定の連携により、地元企業と職業能力検定の連携により、地元企業と人材育成が結び付き、地元企業の魅力を向上させ、地域経済の活性化と、貢献することが可能になるとする。

WISEとは…

WISEは仙台市内に数多くある、学生が企業で働く機会を得るための企業研修材料。その中でWISE(ワイズ)というウェブサイトを、仙台市、宮城県の地元企業と、職業能力検定の連携により、地元企業と職業能力検定の連携により、地元企業と人材育成が結び付き、地元企業の魅力を向上させ、地域経済の活性化と、貢献することが可能になるとする。

**参加申し込みは
コチラから**

**参加企業は
裏面に
ご覧ください!!**

【お申し込み方法】

URL >>> <https://miyagi-coc.jp/>

そのQRコードから参加申込へご案内します！



【事務局】 地域振興教育推進棟 TEL 022-264-6328

FAX 022-264-6328 E-mail miyagi-coc.jp

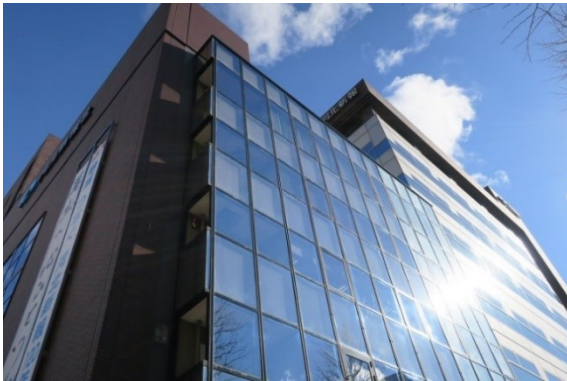
【共同キャリア支援セミナー等の様子】



■共同キャリア支援拠点の設置

申請時から計画していた共同キャリア支援拠点を2017年1月に、仙台駅から比較的近い河北新報社本社別館4階（仙台市青葉区五橋一丁目2-28）に開設した。

共同キャリア支援拠点では、共同キャリア支援セミナーの実施、資料の展示及び情報公開の拠点として運用を行った。しかし、補助金の減額により、2018年3月末をもって閉鎖し、以降に開催されたセミナー等は大学の教室を利用する形で実施した。



▲共同キャリア支援拠点外観



▲共同キャリア支援拠点内部



▲共同キャリア支援拠点で行われた企業研究会



▲共同キャリア支援セミナー

■共同求人情報「COC+企業データベース」 <http://db.miyagi-coc.jp>

本事業では、共同キャリア支援部会が主体となり、共同求人情報として、宮城県の企業情報をデータベース化して公開している。COC+企業データベースには、学生の目線から発見した地元企業の魅力、地元優良企業の情報、宮城県内の共同求人情報、求人票、エントリー情報等を掲出している。

また、Jobway 情報を提供する事業協働機関の宮城県中小企業家同友会は、「地域で若者を育て、地域に若者を残す運動」として、全国に先駆けて共同求人活動を実践しており、その取り組みは、2010年度に「キャリア教育 文部科学大臣表彰」を受賞する実績を有している。

さらに、地域連携部会による協議をもとに宮城県・仙台市が提供する企業情報やイベント情報も多く掲出している。

【掲載情報】

- WISE 企業情報 160 社（企業名、業種、エリアで掲出）
- Jobway 情報「中小企業家同友会企業情報サイト」
- 宮城県の地方創生インターンシップ事業情報「MINT事業」
- 仙台市が提供する就職ポータルサイト情報「仙台で働きたい！」
- 仙台市産業振興事業団と仙台市が運営する就職活動ポータルサイト情報「ジョブ・スタセんだい」
- 宮城県ものづくり産業広報誌情報「オガーレ！ACE」



▲「COC+企業データベース」トップページ

■WISE（ワイズ）事業

本事業では、仙台市、地元新聞社及び印刷会社等と協働して、「地元中小企業情報発信事業（WISE）」に取り組んでいる。

WISE は、地元大学生が地元企業を取材し、その魅力をウェブと冊子で発信する仙台独自の情報発信プロジェクトである（WISE：Work-style Information by Student's Eye の頭文字からネーミング）。2015 年度からの 5 年で、のべ 134 人の学生記者が参加し、のべ 160 社の地元企業の情報が掲載されている。

WISE の学生記者は、現役新聞記者、印刷会社のデスク及び大学教員から取材の方法、記事の作成方法、企業の見方などを学ぶ。その後、下調べ・取材準備、取材交渉・日程調整、取材、執筆、校正確認といった一連の流れを体験する。

本機構もこの実行委員の一員として活動しており、学生募集や研修等を担当した。

【WISE ウェブサイト】

<http://www.wise-sendai.jp/>

6. 地域企業・地域の相互支援

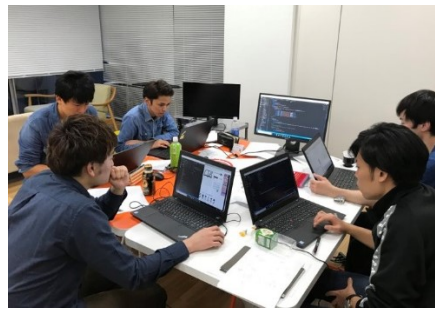
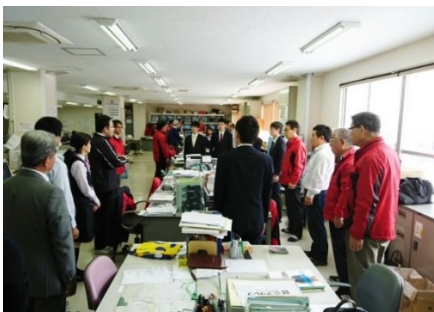
■創造的インターンシップの推進

「創造的インターンシップ」プログラムは、企業支援部会（部会長：東北工業大学ライフデザイン学部 小祝慶紀 教授）が中心となり、地元企業の就業体験、企業における課題研究、就業（入社）後のフォローアップを一連の流れとしたプログラムである。県内企業におけるインターンシップの教育効果の充実と定着支援を目的として、各大学等が実施する既存インターンシッププログラムへのアタッチメントサポートを積極的に行い、インターンシップの質的向上を図った。

また、企業にとって新卒学生を希望どおり採用できないことは深刻な問題であるが、採用者が早期に離職することは更なる問題である。この入社後の早期離職を防ぐため、内定者向けセミナーや就業（入社）後のキャリアカウンセリング等を実施し、インターンシップの質的充実から定着支援にまでプログラムを拡大して展開した。

本プログラムは、2016年に試行的に開始し、2017年度の定着支援の追加を経て、2018年度には連携する企業数を大幅に拡大した。また、本プログラムをとおしてインターンシップに参加した学生が単位認定された。2019年度は定着支援のプログラムを重視した展開となった。これまでに地元企業8社、5高等教育機関の協力を得て、のべ23件、45名の学生（社会人）にプログラムを提供した。

インターンシッププログラムの内容を充実したものにするためのアタッチメントサポートとして、①事前研修、②インターンシップ期間中の企業訪問、③日報による支援、④事後研修を実施した。サポートを受けた学生の事後アンケートからは、すべての項目で「有効」もしくは「あっても良い」との回答があり、その中では、③日報による支援に対する評価が高かった。学生の事後アンケートでは、「事前に研修があることで、自分がどうしてこの企業に行きたいのかが明確になってよかった」「日報等で管理していただいたり、事前に確認したいことを電話やメールで直ぐに対応していただいたり」と、とても心強かった」「（事後研修が）自分の行動を振り返って確認することのできる良い機会だった」「通常のインターンシップと異なり、他のインターンシップに参加する人と一緒に集まり、目標を立てて共有することでより収穫のあるインターンシップにする事が出来た」「自分では、ただインターンシップに参加してそれで終わらせていただろうことをこうして（事後）研修と言う形で考えさせてもらう時間を設けてもらえてとても参考になった」等の感想があり、一連のサポートをとおしてインターンシッププログラムの教育効果を高めることに寄与できた。



▲創造的インターンシッププログラムの様子（左：2016年度、右：2018年度）



▲インターンシップ事後研修



▲定着支援セミナー

■地域自治体等との相互支援

2017 年 6 月 20 日開催の第 6 回地域協働教育推進機構運営会議及び 6 月 29 日開催の第 6 回地域協働教育推進機構会議において「地域連携部会」の設置が承認され部会が設置された。部会設置の承認に基づき、部会員の選任を行い、第 1 回地域連携部会を 2017 年 8 月 25 日に開催した。

地域連携部会（部会長：2017 年 8 月～2018 年 6 月 仙台市 杉田剛 地域産業支援課長、2018 年 6 月～2018 年 10 月 宮城県 乗田知男 産業人材対策課長、2018 年 10 月～ 仙台市 川名豊樹 地域産業支援課長）は、宮城県・仙台市の総合計画に基づいた本事業の推進に資する政策とその実施体制の構築と、地域産業の発展・地域企業の経営革新と人材定着・地方創生に資する政策の具体的な方策の検討を目的に活動した。

事業協働機関雇用創出数の算出

COC+事業では、定量的な達成目標が設定されている。その中で、本事業において「事業協働機関雇用創出数」の算出が非常に困難な状況であった。本部会の協力により「事業協働機関雇用創出数」を算出した。（詳細は 6 ページの数値目標を参照）

COC+企業データベースの運用

COC+企業データベースを構築・運用した。企業情報に加えて、本部会での協議により、宮城県や仙台市が提供するキャリア支援関連の情報、企業情報を掲出した。（詳細は、49 ページの共同求人情報「COC+企業データベース」を参照）

地域産業の発展・地域企業の経営革新と人材定着に向けたイベント開催

- 地元企業魅力発信イベントの開催 （のべ開催 2 回、企業 80 社、学生 236 名参加）
- 宮城の企業発見プログラムへの協力 （のべ協力 2 回、企業 9 社、学生 221 名参加）
- 人材採用・定着セミナーの開催 （のべ開催 2 回、企業 56 社 69 名参加）
- 経営革新・戦略セミナーの開催 （のべ開催 2 回、企業 8 社 9 名参加）

7. 情報発信

本事業では、事業採択の直後に広報用ウェブサイトを開設し、広く一般の方々への情報公開を行ってきた。また、事業協働機関の組織内部に対しては、全学的なFDや教授会等での報告、毎月1回のニュースレターの発行、運営用ウェブサイトによる会議録や資料、スケジュール等の情報共有、メーリングリストを活用したきめ細かな連絡、また対面での綿密な情報交換等を積極的に実施することで、各学内及び一般の方々への認知度を高めてきた。

■ 広報用ウェブサイト <https://miyagi-coc.jp/>

本事業の紹介、事業の成果、イベント等の開催案内、イベント等の実施報告を中心に情報を発信した。本事業における情報発信の主手段として機能し、連携機関へのリンク機能や学生向けの講義資料アーカイブ機能を有した。記事投稿はウェブサイト開設から270を超え、アクセス状況は集計開始以来30,000ユニークユーザー、130,000PVを超えている。

The screenshot displays the Miyagi-COC website interface. The header features navigation links in Japanese and English. The main content area is divided into three columns. The left column contains three news items with photos and titles: 'グループディスカッション実践講座2020を開催しました', '就職活動支援セミナーを開催しました', and '2019年度後期「地域の課題II（地域企業版）」実施報告'. The middle column contains two news items: '宮城県中小企業家同友会発行の就職情報誌の配布について' and '第14回地域協働教育推進機構会議を開催しました'. The right column features a search bar, a section for '文部科学省 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業', a list of '連携機関一覧（外部リンク）' including various universities and organizations, and a '最近の投稿' (Recent Posts) section with links to recent news items.

■運営用ウェブサイト <https://miyagi-coc.jp/mng/>

事業協働機関内専用のウェブサイトとして、運営用ウェブサイトを構築した。運営用ウェブサイトでは、部会・会議資料、議事録のアーカイブ、事業の成果、イベント等の告知、スケジュールの情報共有を行った。共有情報の投稿は 430 を超えており、スケジュールの更新は随時行っている。

みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成事業
運営用ウェブサイト（関係者向け）

組織から探す
ORGANIZATION

情報の種類から探す
LABEL

投稿一覧
ALL POSTS

事業スケジュール
SCHEDULE

事務局
OFFICE

みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成事業
運営用ウェブサイト（関係者向け）

グループディスカッション実践講座2020実施報告を広報用ウェブサイト
に公開しました

2020.02.21 共同キャリア支援部会 活動報告

ウェブサイトはこちらよりご覧ください。

宮城県中小企業家同友会発行の就職情報誌の配布について広報用ウェブ
サイトに公開しました

2020.02.14 【お知らせ】 共有

ウェブサイトはこちらよりご覧ください。

就職活動支援セミナー実施報告を広報用ウェブサイトに公開しました

2020.02.06 共同キャリア支援部会 活動報告

ウェブサイトはこちらよりご覧ください。

ニュースレター2020年1月号（Vol.44）

2020.02.03 ニュースレター 活動報告

ニュースレターをアップロードいたしました。詳細は、添付ファイルをご覧ください。【 【COC+事業】ニュース
レター_2020年1月号_2020.2.3 】

第14回地域協働教育推進機構会議_配布資料（2020.1.31開催分）

2020.02.03 機構会議 配布資料

機構会議の配布資料をアップロードいたしました。詳細は、添付ファイルをご覧ください。あわせて、機構会議の様
子を広報用ウェブサイトに公開しました。ウェブサイトはこちらよりご覧ください。【 第14回_地域協働教育推進
機構...

第13回地域協働教育推進機構会議_配布資料・議事録（2019.10.29開催
分）

2020.02.03 機構会議 配布資料・議事録

機構会議の配布資料・議事録をアップロードいたしました。詳細は、添付ファイルをご覧ください。あわせて、機構
会議の様子を広報用ウェブサイトに公開しました。ウェブサイトはこちらよりご覧ください。【 第13回_地域協働
教育...

第9回_地域連携部会_配布資料（2020.1.30開催分）

2020.01.31 地域連携部会 配布資料

部会の配布資料をアップロードいたしました。詳細は、添付ファイルをご覧ください。【 第9回_地域連携部会_配
布資料（2020.1.30開催分） 】 【 議事録については、準備中です。 】

2019年度後期「地域の課題Ⅱ（地域企業版）」実施報告を広報用ウェブサ
イトに公開しました

2020.01.28 【お知らせ】 活動報告

ウェブサイトはこちらよりご覧ください。

グループディスカッション実践講座開催のお知らせを広報用ウェブサイト
に公開しました

2020.01.14 共同キャリア支援部会 告知

ウェブサイトはこちらよりご覧ください。

サイト内検索

組織から探す

【お知らせ】 (144)

FD/SD部会 (51)

ニュースレター (44)

事務局 (3)

企業支援部会 (29)

共同キャリア支援部会 (99)

単位互換部会 (46)

地域連携部会 (30)

地域高度人材指導開発・評価部会 (35)

教育プログラム開発部会 (81)

機構会議 (14)

運営会議 (14)

高大連携部会 (24)

情報の種類から探す

告知

配布資料・議事録

配布資料

共有

活動報告

平成27年度 事業申請書

アーカイブ

2020年2月

2020年1月

2019年12月

2019年11月

本事業の情報共有の手段として、2016 年 6 月から毎月 1 回、ニュースレターを発行してきた。ニュースレターは第一面に本事業のトピックスとして、イベント等の告知情報、事業の成果を掲載し、第二面には部会の情報をとりまとめた。通算 45 号の発行を行った。

地域協働施設教育推進機構
平成28年7月4日

＝活動報告・会誌等(事業開始より現在まで)＝

地域協働施設教育推進機構会誌
第1回 (平成27年11月30日)
第2回 (平成28年5月10日)
平成28年度事業計画等会誌
地域協働施設教育推進機構運営会議
第1回 (平成27年10月25日)
第2回 (平成28年6月23日)
各都府県連携会議、キックオフイベント開催の要旨
教育プログラム開発委員会
第1回例会(平成28年1月5日)
第2回例会(平成28年5月12日メール会審)
「平成の学び」(地域共生型) 平成28年度版の決定
地域連携人材情報提供・評価委員会
第1回例会(平成28年3月16日 16時)
汎用キャリア支援委員会
第1回例会 (平成28年1月7日)
第2回例会 (平成28年1月26日)
第3回例会(平成28年5月10日)
企業支援委員会との合同開催
第4回例会 (同上)
障がい児委員会
第1回例会(平成28年3月7日)
IT活用委員会
第2回例会 (平成28年3月28日)
第3回例会 (平成28年3月28日)
①OC - コーディネーター養成研修会(第1期) 商業
②OC - 3期生(平成28年5月13日)
企業支援委員会
第1回例会 (平成28年5月5日)
第2回例会 (平成28年5月26日)

第3回例会 (平成28年5月10日)
①共同キャリア支援委員会との合同開催
第4回例会 (同上)
第5回例会 (平成28年6月30日)
共通言語委員会
第1回例会 (平成28年3月2日)
その他・事務局の主な取り組み
○高知大学主催「全国OC/OC+シンポジウム」
へのパネル出演
○広島県主催「全国OC/OC+ネット開設」
(広島県庁にて) <http://miyai-jc.jp/>
○事業・イベントレポート作成

＝今後の開催予定＝
地域連携人材情報提供・評価委員会
7月2日(木) 次回例会開催
汎用キャリア支援委員会
7月12日(木)、15日(金) 次回例会調整中
汎用キャリア支援委員会
7月27日(木) 次回例会開催
9月5日(月)～9日(金)「みぎの企業発見プログラム」を開催(学生募集は7月1日締切)
<http://miyai-jc.jp/career/497/>
IT活用委員会
7月21日(木) 次回例会開催
障がい児委員会
各大学の要請に応じて、IT・SD 研修を複数実施
宮城学院女子大学：7月6日(木)開催予定
石井看護大学：7月14日(木)開催予定
仙台大学：7月26日(木)開催予定

＝OC+推進コーディネーター＝

東京大学工学 建築学専攻(工学) 第2期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第3期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第4期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第5期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第6期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第7期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第8期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第9期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第10期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第11期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第12期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第13期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第14期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第15期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第16期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第17期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第18期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第19期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第20期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第21期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第22期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第23期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第24期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第25期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第26期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第27期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第28期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第29期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第30期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第31期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第32期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第33期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第34期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第35期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第36期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第37期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第38期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第39期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第40期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第41期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第42期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第43期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第44期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第45期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第46期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第47期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第48期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第49期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第50期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第51期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第52期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第53期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第54期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第55期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第56期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第57期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第58期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第59期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第60期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第61期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第62期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第63期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第64期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第65期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第66期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第67期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第68期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第69期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第70期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第71期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第72期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第73期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第74期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第75期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第76期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第77期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第78期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第79期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第80期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第81期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第82期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第83期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第84期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第85期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第86期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第87期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第88期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第89期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第90期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第91期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第92期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第93期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第94期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第95期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第96期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第97期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第98期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第99期生
東京大学工学 建築学専攻(工学) 第100期生

2

[illegible][illegible]

■地元就職のこれからを考えるシンポジウム

地元就職をテーマとしたシンポジウムを開催し、学生、保護者に地域企業の魅力を広く伝える取り組みを行った。このシンポジウムは、地元就職を希望する保護者の疑問点を解消し、就職活動中の学生との望ましい接し方について学ぶとともに、学生・保護者、企業及び大学教職員など参加者同士の相互理解を深めることを目的とした。

日時 2017年2月25日(土) 13時30分から16時00分(13時00分開場)

会場 河北新報社 別館5階ホール(仙台市青葉区五橋1-2-28)

担当部会 共同キャリア支援部会

協力 河北新報社

プログラム

第1部 ガイダンス

事業概要及びシンポジウムの説明

大学キャリア支援担当者から最近の学生の就職活動に関する説明や就職活動中の学生への接し方の説明

第2部 トークセッション

パネルディスカッション ～「宮城で働く」を考える～

若手社員3人をゲストに招いたトークセッション

第3部 意見交換会

ゲストの若手社員や地元企業の経営者、そして大学教職員との意見交換会

全体で意見共有、まとめ

参加者数 50名

報告掲載 URL <https://miyagi-coc.jp/topic/1134/>

【シンポジウム案内チラシと当日の様子】



▲シンポジウム案内チラシ



▲トークセッションと意見交換

-地域とともに成長するプログラムデザイン-

59

【当日の様子】



▲第1部基調講演



▲第2部ワークショップ

■新しい価値をつくる（Innovation）人材の育成を考える

宮城県に自ら新しい価値をつくりだす人材＝イノベーション人材が必要であると考え、本事業では、宮城県内の12 高等教育機関、自治体及び企業等が連携し、人材育成に取り組んでいる。本シンポジウムでは、宮城県内の高等教育機関における人材育成の取り組みと課題を報告するとともに、イノベーション人材の育成において知見を有するヤフー株式会社の人材育成戦略と事例を紹介し、宮城県内において新しい価値をつくるイノベーション人材をどうしたら育成できるかについて考えた。

日時 2018 年 11 月 29 日（木）15 時から 17 時 42 分（14 時 30 分開場）
場所 トラストシティ カンファレンス・仙台（仙台市青葉区一番町 1-9-1）
担当部会 地域高度人材指標開発・評価部会
プログラム

本事業の進捗と概要説明

講演 「ヤフー株式会社におけるイノベーション人材の育成戦略と具体的な取り組み」

ゲスト講師 小向洋誌（ヤフー株式会社）

パネルディスカッション

パネリスト 小向洋誌

吉田剛（部会長／宮城教育大学教授）

進行 松崎光弘（上席 COC+推進コーディネーター）

ふりかえり テーマ「どうしたらイノベーション人材を育成できるか」

共有と総括

参加者数 103 名

報告掲載 URL <https://miyagi-coc.jp/topic/4265/>

【シンポジウム案内チラシ】

COC+シンポジウム 2018

Innovation

新しい価値をつくる 人材の育成を考える

参加費無料
定員100名
(先着順)

日時 2018年11月29日(木)
15時～17時30分 (開場 14時30分)

会場 トラストシオ コンファレンス・仙台
仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラスタワー5階

プログラム

- ◎ COC+事業と人材育成について
- ◎ 講演
「ヤマー株式会社におけるイノベーション人材の育成戦略と具体的な取り組み」
- ◎ パネルディスカッション
「どうしたらイノベーション人材を育成できるのか」

パネリスト

- ヤマー株式会社
小向 洋誌 氏
- 地域経済人材情報開発・評価部長 / 宮城教育大学准教授
宮田 剛
- 地域経済の育成推進課 上席 COC+推進コーディネーター
松崎 光弘

◎ 意見交換

こんな方、ぜひご参加ください
「会社が成長し続けるために必要な人材育成とは何か」「新たな価値を生み出す中で育てるにはどうしたらよいか」などを日々考え取り組んでいる企業の方、人材育成に関心のある皆さま

講演講師



小向 洋誌 氏

ヤマー株式会社
コーポレートグループ
グループ・ディレクション/技術本部
システム・IPD室長
PD 企画課 総務庶務リーダー

YAHOO!
知恵蔵

地元仙台にて起業と商業を営む。2005 年ヤマー株式会社に入社。ウェブビジネスを推進。2005 年ヤマー株式会社より人材開発、組織開発に携わり、「3in1（エーシング）」を中心としたマネジメント事業を全国に展開する。また、創業として企業の成長活動の支援を行っている。

平成 27 年度 文部科学省 第 3 (B) の観点に基づいた地域経済振興事業 (COC+)「イノベーション人材の育成推進活動」による地域経済人材の育成

イノベーションの拠点

COC+シンポジウム 2018

Innovation

新しい価値をつくる 人材の育成を考える

参加費無料
定員100名
(先着順)

本事業では、宮城県に自ら新しい価値をつくりだす人材=イノベーション人材が必要であると考へ、県内12の高等教育機関、自治体及び企業等と連携し、人材育成に取り組んでいます。

今回のシンポジウムでは、県内の高等教育機関における人材育成の取り組みと課題を報告するとともに、イノベーション人材の育成において知見を有するヤフー株式会社の人材育成戦略と事例を紹介します。さらに、宮城県において新しい価値をつくるイノベーション人材をどうしたら育成できるか、大学と企業の協働について考えます。

主催：地域協働教育推進機構

地域協働教育推進機構は、宮城県内の12の高等教育機関、自治体及び企業、関係団体等によって「大学等・専門学校・民間企業等による地域未来人材の育成・事業創出支援」を目的として設立された組織です。

【事務局設置機関】

東北大学工学部、宮城県立大学、東北工業大学、仙台薬学大学、山形大学工学部、仙台大学、山形大学経済大学、東北生活文化大学、宮城学院大学、聖和学院大学、東北生活文化大学短大、仙台高等専門学校

【会場】

宮城県・仙台市

【企画・協賛】

ヤフー株式会社、仙台市役所、宮城県中小企業振興会、仙台市教育委員会仙台地区行政委員会、宮城県青年会議所連合会

会場へのアクセス

トリスレシディア カンパレンス・仙台
仙台市青葉区一丁目1番1 仙台トラスタワー5階

申込方法

WEB サイト <http://miyagi-coc.jp/topic/3889/> よりお申し込みください。

不明な点などございましたら、下記問合せ先まで電話・メールにてお問合せください。

問合せ先

地域協働教育推進機構 事務局

【TEL】 022-624-6328 または 6424 【FAX】 022-624-6364

【E-mail】 miyagi-coc@miyagi-coc.jp 【URL】 <http://miyagi-coc.jp/>

【FAX】 090-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-31 (東北大学内)

※本イベントは「大学等・専門学校・民間企業等による地域未来人材の育成・事業創出支援」を目的として設立された組織です。

※本イベントは「大学等・専門学校・民間企業等による地域未来人材の育成・事業創出支援」を目的として設立された組織です。

※本イベントは「大学等・専門学校・民間企業等による地域未来人材の育成・事業創出支援」を目的として設立された組織です。

【当日の様子】



▲パネルディスカッション



▲阿部機構長による総括

■COC+事業の総括とこれからの地域協働教育を考える

補助期間の最終年度にあたる本シンポジウムは、事業総括のシンポジウムとして位置づけ、これまでの本事業の取り組みや各機関の連携の姿をふりかえり、これからの地域協働教育のあり方について考える機会とした。パネルディスカッションでは、地域協働教育のひとつとして実施した課題解決型プログラムの事例報告をとおして、学生と企業の挑戦が何を生み出したのかを見いだし、ワークセッションでは、人材の育成、地域企業の成長及び発展、更には今後の地域協働教育のあり方についてフロア参加者と議論し、今後、地域が一体となり成長及び発展するための地域協働教育のあり方について考えた。

日時 2019 年 12 月 21 日（土）14 時 30 分から 17 時（14 時開場）
 場所 トラストシティ カンファレンス・仙台（仙台市青葉区一番町 1-9-1）
 担当部会 地域連携部会
 プログラム

事業実施報告

パネルディスカッション

パネリスト 辻 尚広（三養水産株式会社 代表取締役）
 松本 裕也（一般社団法人フィッシャーマンジャパン／ヤフー株式会社）
 高橋 ひな子（東北学院大学 経営学部 3 年）

進行 松崎 光弘（上席 COC+推進コーディネーター）

ワークショップ テーマ「これからの地域協働教育を考える」

共有と総括

参加者数 100 名

報告掲載 URL <https://miyagi-coc.jp/topic/5791/>

【シンポジウム案内チラシ】

「地方創生元年」と呼ばれる2019年度から、もうすぐで2年が経過しようとしています。この間、様々な施策のもと、取り組みが行われてきました。2015年度から宮城県内の12高等学校で、農産物及び地域企業・団体は、地域協働教育推進機構を組織し、文部科学省補助事業（COC+事業）の協賛を受け、産学連携を推進し、新たな地域を創出する人材の育成に地域協働の力をもち企業の成長を支援する目的で「みやぎ・せんとく」協働教育推進による地域高度人材の育成（事業）に取り組んでいます。

2019年度は、協働教育の第1年度であり、この事業の一環で取り組む人財育成プログラムの報告をはじめ、2020年度以降の大学等における人財育成と企業が成長する地域協働教育のあり方について一層に考え、作り上げる場を設けたいと思います。

今後、産学の成長発展を目指す企業の方や、課題解決プログラムの実行を考えている関係者の方、これまでこの事業に関わっていただいた方、皆さまのご参加をお待ちしております。

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1 トラストタワー5階

申込方法
Webサイト
URL: <https://miyagi-coc.jp/topic/5580/>
お申し込みは、お申し込みのうえ、下記お問い合わせ先まで電話・メールにてご連絡ください。
お申し込みページのQRコードはこちら

会場へのアクセス
トラストシティ カンファレンス・仙台
仙台市青葉区一番町1-9-1 トラストタワー5階

「地方創生元年」と呼ばれる2019年度から、もうすぐで2年が経過しようとしています。この間、様々な施策のもと、取り組みが行われてきました。2015年度から宮城県内の12高等学校で、農産物及び地域企業・団体は、地域協働教育推進機構を組織し、文部科学省補助事業（COC+事業）の協賛を受け、産学連携を推進し、新たな地域を創出する人材の育成に地域協働の力をもち企業の成長を支援する目的で「みやぎ・せんとく」協働教育推進による地域高度人材の育成（事業）に取り組んでいます。

2019年度は、協働教育の第1年度であり、この事業の一環で取り組む人財育成プログラムの報告をはじめ、2020年度以降の大学等における人財育成と企業が成長する地域協働教育のあり方について一層に考え、作り上げる場を設けたいと思います。

今後、産学の成長発展を目指す企業の方や、課題解決プログラムの実行を考えている関係者の方、これまでこの事業に関わっていただいた方、皆さまのご参加をお待ちしております。

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1 トラストタワー5階

申込方法
Webサイト
URL: <https://miyagi-coc.jp/topic/5580/>
お申し込みは、お申し込みのうえ、下記お問い合わせ先まで電話・メールにてご連絡ください。
お申し込みページのQRコードはこちら

会場へのアクセス
トラストシティ カンファレンス・仙台
仙台市青葉区一番町1-9-1 トラストタワー5階

【当日の様子】



▲パネルディスカッション



▲共有と総括

9. 自己点検・評価、外部評価

本事業における実施体制及び内容等に対して、自己点検・評価、事業報告書の作成及び外部評価を実施している。

「自己点検・評価」については、地域協働教育推進機構会議（協議の場）、地域協働教育推進機構運営会議（部会間の連携・調整や全体的な実務的協議の場）及び各部会単位で実施し、「自己点検・評価報告書」としてまとめている。この報告書は、本事業の機構会議、運営会議及び各部会で活用しているほか、ウェブサイトに掲載し、社会に対して広く公表している。

「事業報告書」については、中間報告書、2018年度 事業報告書を各部会での自己点検・評価に基づき作成し、ウェブサイトに掲載しているほか、外部評価の資料としても活用している。

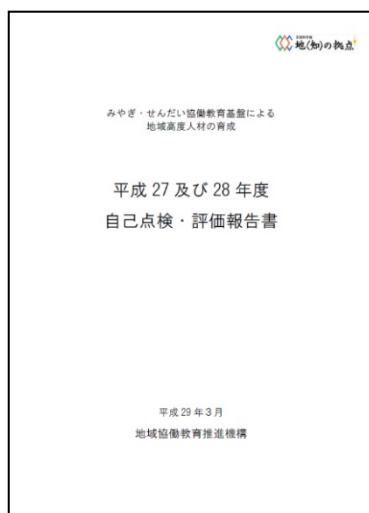
「外部評価」については、2016年度に「平成27及び28年度 自己点検・評価報告書」、2017年度に「中間報告書」、2018年度に「2018年度 事業報告書」に基づき書面評価と面接評価により実施した。なお、面接評価は、書面評価の結果をもとに、地域協働教育推進機構長、部会長、COC+推進コーディネーター及び事務局からの説明と質疑応答とした。外部評価の結果は、「外部評価報告書」としてまとめ、「自己点検・評価」、「中間報告書」、「2018年度 事業報告書」と同様に本事業の機構会議、運営会議及び各部会で活用しているほか、ウェブサイトに掲載し、社会に対して広く公表している。なお、外部評価委員は、本事業協働機関以外の他大学や行政機関の教職員に委嘱している。

・平成27及び28年度 自己点検・評価報告書

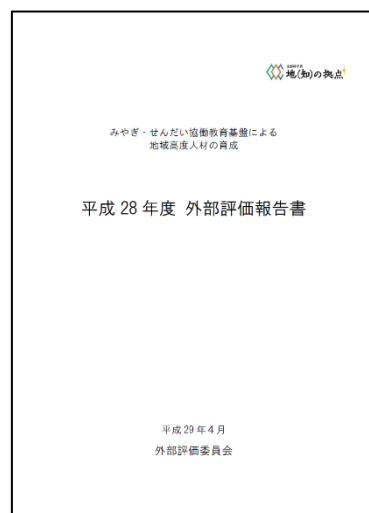
掲載URL <https://miyagi-coc.jp/topic/1282/>

・平成28年度 外部評価報告書

掲載URL <https://miyagi-coc.jp/topic/1946/>



▲平成27及び28年度自己点検・評価報告書



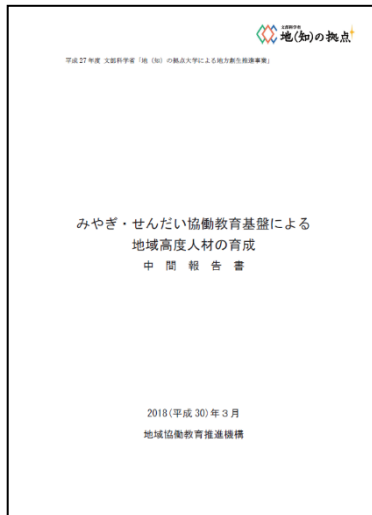
▲平成28年度外部評価報告書

- ・ 中間報告書

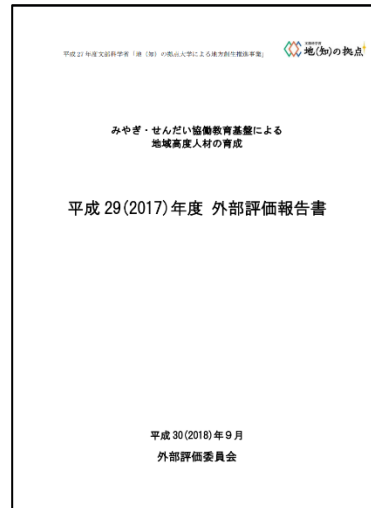
掲載 URL <https://miyagi-coc.jp/topic/3185/>

- ・ 平成 29 (2017) 年度 外部評価報告書

掲載 URL <https://miyagi-coc.jp/topic/4186/>



▲ 中間報告書



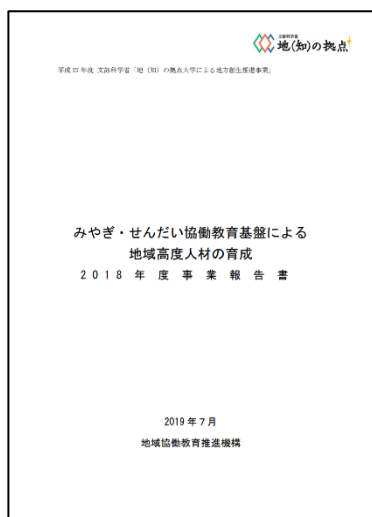
▲ 2017 年度外部評価報告書

- ・ 2018 年度 事業報告書

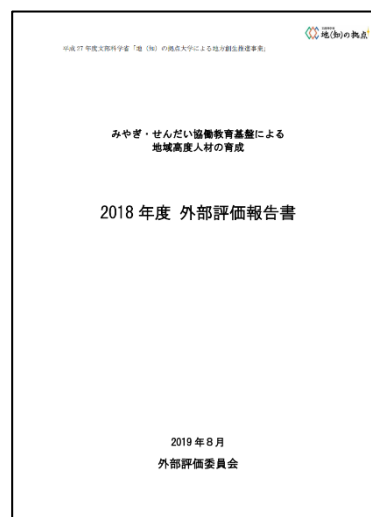
掲載 URL <https://miyagi-coc.jp/topic/5162/>

- ・ 2018 年度 外部評価報告書

掲載 URL <https://miyagi-coc.jp/topic/5596/>



▲ 2018 年度事業報告書



▲ 2018 年度外部評価報告書

部会員等名簿

2020年3月現在

■教育プログラム開発部会

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
部会長	東北学院大学	学長室長／経済学部教授	阿 部 重 樹
部会員	宮城教育大学	総務担当副学長／教育学部教授	前 田 順 一
部会員	東北工業大学	教務学生課長	目 黒 裕 二
部会員	石巻専修大学	理工学部准教授	高 橋 智
部会員	尚絅学院大学	大学院総合人間科学研究科長	水 田 恵 三
部会員	仙台大学	副学長／体育学部教授	青 沼 一 民
部会員	仙台白百合女子大学	人間学部准教授	志 水 田鶴子
部会員	仙台白百合女子大学	事務局次長／図書館事務長	高 橋 豊
部会員	東北生活文化大学	副学長／美術学部教授	北 折 整
部会員	宮城学院女子大学	学芸学部教授	天 童 睦 子
部会員	聖和学園短期大学	事務部教務課主任	大曾根 学
部会員	仙台高等専門学校	副校長／機械システム工学科教授	佐 藤 一 志
部会員	仙台高等専門学校	ICT 先端開発センター教授	千 葉 慎 二
部会員	一般社団法人まるオフィス	理事／若者支援チームリーダー	小 林 峻

■単位互換部会

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
部会長	仙台白百合女子大学	人間学部准教授	鈴 木 寿 則
部会員	東北学院大学	学務部長／教養学部教授	加 藤 健 二
部会員	仙台大学	体育学部講師	高 橋 徹
部会員	仙台大学	教育企画室	鈴 木 将 士
部会員	仙台白百合女子大学	教務課	佐々木 直 子
部会員	東北生活文化大学	家政学部教授	栗 山 孝 雄
部会員	宮城学院女子大学	教務課長	佐 藤 義 明
部会員	聖和学園短期大学	キャリア開発総合学科教授	梅 津 裕 子

■地域高度人材指標開発・評価部会

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
部会長	宮城教育大学	教育学部教授	吉 田 剛
部会員	東北学院大学	文学部教授	稲 垣 忠
部会員	東北工業大学	教務委員会副委員長／ 工学部准教授	田 村 英 樹
部会員	尚絅学院大学	政策企画室職員／ 地域実践グループ責任者	佐 藤 司
部会員	尚絅学院大学	現代社会学科准教授	藤 本 吉 則
部会員	仙台大学	体育学部教授	日 下 三 男
部会員	仙台白百合女子大学	人間学部准教授	大久保 剛
部会員	仙台白百合女子大学	教務課長	堀 籠 未 来
部会員	東北生活文化大学短期大学部	生活文化学科長／ 生活文化学科教授	松 尾 広
部会員	宮城学院女子大学	学芸学部教授	木 野 和 代
部会員	日本政策金融公庫仙台支店	国民生活第一事業融資第二課長	田 中 篤

■高大連携部会

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
部会長	宮城教育大学	連携担当理事	岡 正 明
部会員	東北学院大学	学長室副室長／工学部教授	志子田 有 光
部会員	東北学院大学	教養学部教授	菅 原 研
部会員	宮城教育大学	教育学部教授	吉 田 剛
部会員	仙台大学	体育学部教授	井 上 雅 勝
部会員	仙台大学	事業戦略室室長	宍 戸 充
部会員	仙台白百合女子大学	事務局次長／図書館事務長	高 橋 豊
部会員	東北生活文化大学	家政学部教授	土 井 豊

■FD/SD 部会

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
部会長	宮城学院女子大学	学長戦略室長／学芸学部教授	大 橋 智 樹
部会員	石巻専修大学	人間学部教授	新 福 悦 郎
部会員	仙台大学	体育学部教授	日 下 三 男
部会員	仙台大学	教育企画室担当課長	伊 東 宏 之
部会員	仙台白百合女子大学	人間学部教授	高 橋 泉
部会員	仙台白百合女子大学	教務課	江 畑 圭 輔

■共同キャリア支援部会

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
部会長	東北学院大学	学長室副室長／教養学部教授	坂 本 泰 伸
部会員	東北学院大学	就職キャリア支援課長	田 口 修
部会員	宮城教育大学	連携担当理事	岡 正 明
部会員	東北工業大学	キャリアサポート課長	石 川 進 一
部会員	尚絅学院大学	進路就職課長	中 村 節 子
部会員	尚絅学院大学	進路就職課	岩 崎 真 弥
部会員	仙台大学	体育学部准教授	藪 耕 太 郎
部会員	仙台白百合女子大学	キャリアセンター長	佐 藤 啓 朗
部会員	仙台白百合女子大学	キャリア支援課	青 井 美智子
部会員	東北生活文化大学	家政学部教授	井 上 美 紀
部会員	東北生活文化大学短期大学部	学生課長	岡 部 正 利
部会員	宮城学院女子大学	キャリア支援課長	山 田 弘 子
部会員	聖和学園短期大学	キャリア開発総合学科講師	今 野 則 幸
部会員	宮城県	産業人材対策課主幹	千 葉 さおり
部会員	仙台市	地域産業支援課雇用対策室長	尾 崎 宏 之
部会員	仙台市	地域産業支援課雇用対策室	佐 藤 千奈紀
オブザーバー	石巻専修大学	理工学部教授	亀 谷 裕 敬

■企業支援部会

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
部会長	東北工業大学	就職委員会副委員長／ 地域連携センターセンター長／ ライフデザイン学部教授	小 祝 慶 紀
部会員	東北工業大学	キャリアサポート課長	石 川 進 一
部会員	仙台大学	体育学部講師	三 谷 高 史
部会員	仙台大学	入試創職室主幹	中 鉢 芳 尚
部会員	仙台高等専門学校	副校長／機械システム工学科教授	佐 藤 一 志
部会員	仙台高等専門学校	ICT 先端開発センター教授	千 葉 慎 二
部会員	宮城県	富県宮城推進室商工企画班室長補佐 兼企画員(班長)	川 部 裕
部会員	仙台市	地域産業支援課長	川 名 豊 樹
部会員	七十七銀行	地域開発部地域開発課課長代理	堀 江 周 英
部会員	仙台銀行	経営企画部経営企画課主任	小山田 恵
部会員	日本政策金融公庫仙台支店	国民生活第一事業 融資第二課長	田 中 篤
オブザーバー	東北学院大学	学長室副室長／教養学部教授	柳 井 雅 也
オブザーバー	石巻専修大学	経営学部教授	李 東 勲

■地域連携部会

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
部会長	仙台市	地域産業支援課長	川 名 豊 樹
副部会長	宮城県	産業人材対策課長	阿 部 貴 夫
部会員	東北学院大学	学長室参与	菊 地 祐 一
部会員	石巻専修大学	人間学部教授	照 井 孫 久
部会員	尚絅学院大学	大学院総合人間科学研究科長	水 田 恵 三
部会員	仙台大学	体育学部教授	大 山 さく子
部会員	仙台白百合女子大学	事務局次長／図書館事務長	高 橋 豊
部会員	東北工業大学	工学部准教授／ 就職委員会副委員長	松 田 勝 敬
部会員	東北生活文化大学短期大学部	生活文化学科教授	横 山 美喜子
部会員	仙台高等専門学校	総合科学系理数科教授	遠 藤 智 明

■コーディネーター・事務局

職 名	所属機関名	所 属 ・ 職 名	氏 名
コーディネーター	地域協働教育推進機構／ 東北学院大学	上席 COC+推進コーディネーター／ 特任教授	松 崎 光 弘
コーディネーター	地域協働教育推進機構／ 東北学院大学	COC+推進コーディネーター／ 特任准教授	伊 藤 晋
コーディネーター	地域協働教育推進機構／ 東北学院大学	COC+推進コーディネーター／ 特任助教	四 宮 千佳子
コーディネーター	地域協働教育推進機構／ 東北学院大学	COC+推進コーディネーター／ 特任助教	高 橋 美 和
コーディネーター	地域協働教育推進機構／ 東北学院大学	COC+推進コーディネーター／ 特任助教	千 葉 真 哉
事務局	東北学院大学	学長室事務課長	石 川 学
事務局	東北学院大学	学長室事務課係長	相 澤 孝 明
事務局	東北学院大学	学長室参与	菊 地 祐 一
事務局	地域協働教育推進機構／ 東北学院大学	事務局	原 田 均 吾
事務局	地域協働教育推進機構／ 東北学院大学	事務局	今 結
事務局	地域協働教育推進機構	事務局	松 崎 典 子

平成 27 年度 文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」
「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成」
事業報告書

連携機関一覧

●高等教育機関

東北学院大学

宮城教育大学

東北工業大学

石巻専修大学

尚絅学院大学

仙台大学

仙台白百合女子大学

東北生活文化大学

宮城学院女子大学

聖和学園短期大学

東北生活文化大学短期大学部

仙台高等専門学校

●自治体

宮城県

仙台市

●企業・団体

七十七銀行

仙台銀行

宮城県中小企業家同友会

日本政策金融公庫仙台支店

宮城県商工会議所連合会

【問合せ先】

東北学院大学学長室事務課

〒980-8511

宮城県仙台市青葉区土樋 1－3－1

TEL 022-264-6424 FAX 022-264-6364

E-MAIL tgppo@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

2020 年 3 月

編集・発行 地域協働教育推進機構